

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	谷本仰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学 I	1	前期	必修		32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては対話を大切にしています。
--	--------------------------------

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に明示下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	テスト、及び授業評価アンケートの総合的判断に加え、それらに数値として反映しえない、授業における学生たちの積極的な雰囲気(笑顔、楽しんでいる様子、発言、相互の関わり等)、そして独自に実施している全授業毎の全員へのアンケートにおいて示された意見や感想を含むフィードバックによる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的に妥当であると考える。キリスト教学が必修科目として設定されていることは、この大学の建学の精神そのもの、この大学の礎や柱そのものがキリスト教であることを表している。この大学が大切にしようとしているキリスト教の精神や、思想、さらには信仰を学生たちが日常的に学んでいく過程そのものが、この授業である。その意味ではこの授業・科目はこの大学での全ての学びのベースとしてあることが求められていると理解しており、キリスト教学は、他の教科とは一線を画する内容や方向性をもっていなければならないと考える。この授業において目指されているのは、知識の習得や理解だけではない。むしろ、聖書・キリスト教が語ってやまないメッセージそのものを分かちあうことこそ、この授業の核心である。希望のこと、愛すること、生きること。諦めないこと。自分を大切にすること。他者との対話や共感を大切にすること。そのことは単にキリスト教のメッセージの中身として「理解」し「知る」だけでは不十分である。それらが、ひとりひとりの学生たちを問い、学生たちがそれとの対話に生きることになることこそが大切なのだと思う。学生たちの学習到達度の自己評価を超えて、この授業を通じて分かち合われたものが、「種」のようにひとりひとりのいのちに満たされていくことを願っている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	特に大きな改善課題はないと考える。クラス毎に、学年ごとに、個性があり、違いがある。その個性や違いに応じながら、今後も授業を進めていきたいと思う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	キリスト教学の授業は、楽しい。学生たちとの対話に満ちた90分は、いつも授業を担当する自分自身を新たにし、開いてくれる。その対話の中で、希望を学生たちと分かちあうことができるよう、今後も努力していきたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	古川敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
宗教と人間	全学年	前期	選択	はい	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 「学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、受講動機は「関心がある内容である」が100%で非常に高い。しかし、キリスト教以外に関する知識や理解は概して知らないのが受講生の現実である。そこで、宗教が人間にもたらす豊かさを説明し、宗教を学ぶ意義を明らかにした後で、日本における代表的な宗教、すなわち、神道、仏教、キリスト教を時代順に説明した。これらの説明を終わった後で、イスラム教を取り上げた。 ② <学生の質問を受け付け、それに答える機会>としては、授業毎に、受講生が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用した。これを授業への参加意識を高める工夫の一つとした。 ③ 少人数の構成であったので、関心をもてるように、対話を多くし、質問を引き出しそれに答える形で進行することにした。 ④ 身近な学習となるように、中間的まとめとして、宗教の映像を用い、それまで学んだことと実際の生活とがどのように結びつくかを自ら考え確認することができるようにした。 ⑤ 期末試験では、その準備の過程で、受講生が宗教に関して知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。 ⑥ 受講生の集中力を高めるため、祈りをもって始めた。集中力の維持のために、折々に机の間を歩き、問いかけや話しかけを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績を見ると、平均値は86.5点であり、再試対象は0名であった。分布的には全員が理想的レベル(概ね80点以上)に達した。これは、少人数で、毎回、知識習得と理解の可否を口頭で確認し、質問に答える時も全員が知識を確認し理解を深めえることができるように常に工夫し、学生も関心を持って授業を受け、十分な準備をして試験に臨むことができたことの結果であると評価できよう。 ② 学生の達成自己評価を見ると、否定的回答は0であった。肯定的回答の内訳は、「わりにそうだと思う」とされた事項は<理解><専門分野での確に判断する力><専門分野での意欲><専門分野での技術><規範習得>であった。これに対し「まあまあそうだと思う」とされた事項は、<知識><専門分野で課題を検討する力><コミュニケーション力><職業選択の参考になった>という事項であった。全体としては、<自分なりの目標を達成した>という事項に「わりにそうだと思う」と回答している。 ③ 学習量の評価を見ると、記録作成については、<主に配布された資料に記録した>という回答がなされ、予復習の時間を見ると、30分以上の予習も30分以上の復習も等しく2乃至3回行っている。 ④ 以上を分析すると、否定的回答は0であるが、「かなりそう思う」という肯定的回答も0であり、いわば、最低と最高のいずれをも回避するように、中間の「わりに」と「まあまあ」とが選ばれている。そして、全体としては、その中間的な中でも上位の「わりにそう思う」が選択されている。詳細に分析し検討すると、この上位の選択をされた事項は、<理解、判断、意欲、技術、規範>という価値判断や決断、責任に関わる実質的項目である。これに対し、下位の置かれた事項は、<知識、検討、コミュニケーション、職業選択>というそれ以外の項目に近い。受講生が受講した動機もこれらの実質的な項目のことを学ばなかったことにあり、その目標が決心とま					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超えた学習上、その根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答は、0であった。「若者の宗教離れ」という現代に、神道、仏教、キリスト教、イスラム教という日常的にそれほど接触しない様々な宗教を21世紀の生身の人間と関連させて理解する関心を、学生が15回の授業のすべてにおいて「わりにそうだと思う」という程度に維持することは大変なことである。それをなし遂げることが出来たということに、内容的には妥当であったと考える。 ② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価を見ると、国際的視野と地域的視野に立つてこうどうするための豊かな教養と幅広い知識の習得による<知識><理解>、及び、現代社会の諸問題についての適切な対応を可能にする<検討する力><判断する力>、世界文化への関心・理解の<意欲>、グローバル社会に協同する姿勢を重視する<規範習得>また、多元的価値観に相応しい<技術・表現>の事項のいずれにも、否定的回答は0であり、肯定的回答がなされていることから、DPの位置づけとしても内容的に妥当であったと考える。 ③ 以上から、内容的には問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	① 学生の担当教員への意見はなかった。 ② 授業の進め方に関して授業の質評価を見ると、否定的な回答は0であった。＜学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた＞＜参加する機会＞と いう事項では、「まあまあそうだと思う」という回答がなされている。＜理解しやすい＞という事項に関しては、「わりにそうだと思う」という回答されている。＜評価基準 ＞と＜課題＞の明確性に関しては「わりにそうだと思う」という回答されている。 ③ 以上を踏まえるとき、1)＜評価基準＞と＜課題＞を繰り返し明示し了解されていることを幾度か確認すること、2)＜質問と回答＞＜参加の機会＞は、理解を助 けることから、少人数の場合にはより活用すること、3)＜理解＞に関しては、「わりにそうだと思う」という回答であったが、その前提に知識が必要であり、＜知識＞ 習得については「まあまあ」という回答であったことから、知識習得の面で進め方を改善すること、これらが必要であると考え。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	① 授業準備として、若者の宗教離れで宗教が身近でないことから、一層身近な事柄に翻訳して講義する必要がある。また、評価基準と課題は、最初に明示するだ けでなく、折々に喚起し明示する必要がある。 ③ 総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門 分野とは異なる学問する喜びをもたらし得ることにある。「学生の授業評価アンケート」に否定的回答は0%であったが、学生の＜目標達成＞のためには、現在は「わ りにそうだと思う」という回答であった。これが「かなりそうだと思う」という回答になるようにするには、＜知識＞が習得されたことを確認しながら進め、誤解を修正す る必要がある。特に新しい知識の習得に当たってはその確認が一層重要である。それには＜参加の機会＞＜質問に答える機会＞が提供されていると学生が 意識でき活用できるようにすることが重要であり必要である。 ③ 以上から、内容は妥当であるが、方法論としては、明示と整理と確認の作業を繰り返すこと、身近なことに翻訳すること、参加の機会と質問に答える機会を活用で けるようにすることが、今後の課題と思われる。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	柳澤伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	全学年	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○		

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機では、全てが「単位数を確保する」を選択し、「関心のある内容である」を選択した者は、ごく少数である。必ずしも初めから積極的な受講姿勢を期待し難い状況の中、新聞記事をはじめ、できる限り最新の情報を使いながら、ジェンダーが女性の生き方に深くかかわる問題であることをつかめるように心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成されなかった		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は76で、秀・優は少なく、大半が良であった。到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の項目の選択では、中央値を頂点に正規分布的な結果であるが、「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」では、そうではないと思うとする者がやや多かった。「学生が参加する機会が作られていた」、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の項目では、選択が拡散したが、そうではないと思うとする者の方が多いので、改善が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、総合人間科目の一つで、DP1だけでなく、DP2、DP3にも係わる位置づけがなされている。それは、ジェンダーが女性の生涯に深くかかわる問題であるので、妥当である。ただし、授業に、キャリア形成や専門分野との関連性を感じられる工夫が必要であり、それがないと、単位数を確保するための受講、単なる断片的な知識の獲得に終わりがねない恐れがある。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業は、毎回、テーマに基づいて、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に際しては、最近の新聞記事も使い、ジェンダーをめぐり今日の諸問題が捉えられるようにした。中絶論争に関するレポートを課し、アメリカの女性の間での意見の対立について考えさせたことは、良かった。しかし、予習・復習について、学生任せにしたきらいがあり、教員には課題を具体的に与える姿勢が求められた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義を通してジェンダー問題について新しい知見を与える課題はそこそこ達成できた。しかし、専門分野とのつながりを掴めるようにする工夫やアクティブラーニングを促す工夫では改善の余地がある。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合人間学概論	1	前期	必修	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 必修科目であるため、受講動機は100%である。 ② 8回の講義を、オムニバス形式による9名の担当者で賄った。その中で担当したのは、4月20日(月曜4時限目)の1コマで、英語学科長と観光文化学科長が分担当した。 ③ 持ち時間は40分程度であったが、内容は「教育目的」であったため、それに応じた準備をした。 ④ 具体的には、a.英語学科の教育目的、b.本当のコミュニケーション能力とは、c.新卒採用に関するアンケート調査結果、d.異文化理解、e.自分探し、f.人文学部の教育目的などに関する準備をした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 32名の受講者の全8回の出席率は97.7%で、非常に高かった。 ② 2度の課題提出に関して、最後のレポート未提出者が1名いて全員合格とはならなかったが、その他の受講者は全て合格できた。一つ目の課題(評価率30%)は、担当した4月20日の分で「本日の講義を聴いて、その感想を書きなさい」という内容であった。二つ目の課題(評価率60%)は「感恩奉仕の精神に基づいた女性としてのキャリア形成のため、大学で学ぶべきこと」であり、後日提出することになっていた。時間を十分与えられてた二つ目の内容は、よく考えて構成されていたものが多かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 総合人間学概論に関する英語学科の到達目標は4項目挙げられているが、8回の講義を通じて、すべての分野が総合的にカバーされており、内容的には妥当だと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 英語学科DP1-1に関しては第1・2・3・6回目、DP2-1に関しては第4回目と5回目、DP3-1は第7回目、DP4-3は第8回目の講義がそれぞれ該当すると判断できる。 ③ 以上から、内容的妥当性には問題ないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 与えられた時間が限定的であったため、授業の進め方は講義形式になって当然である。形式の改善がないのであれば、内容をその年に沿った中身にできれば理想的であろう。 ② 予習・復習時間は0～1回が非常に多いのは、1回きりの講義が8回ということもあり、やむを得ない状況が見えてくる。 ③ 学習量の評価(4)の「授業の課題以外に学習していない理由」に13の記述が見られた。その中で、「何をしてよいかわからないから」「時間がなかった」「他の科目に時間を当てたため」などがあったが、一番多かったのは、時間がなかったという意見である。 ④ シラバスを参考にしたか否かは、ほぼ半々の結果であった。また、図書館等の利用も、本科目に関しては、ほとんどなされていない。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① オムニバスで実施する以上、講師の選択(特に外部講師)と講義内容が適切であれば、学生にとっては、人間としての基礎教養が身につくよい科目であると判断している。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語学科
氏名	村上 太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
行動科学		前期	選択	はい	

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であるため、講義内容に関心を持っている学生または単位数の確保といった動機が主であると思われるが、授業を通して内容に興味を持ってもらえるようなテーマ・取り扱う内容を工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」においては、学生評価の平均値がすべて3点を上回っていた。分布としては、「まあまあそうだと思う」と「わりにそうだと思う」に8割以上の学生が集中していることがうかがえる。とはいえ、様々な学部・学科の学生が非常に多く受講していることから、それぞれの専攻を勉強している学生それぞれの受講ニーズを等しく満たすことは非常に難しいため、この程度の平均値は比較的高いものではないかと考える。 学習量としては、授業外での復習は、学生の自主性に任せてはいるものの勧めていた。その結果、復習を度々行っている学生もいた。授業の中で完結できるような内容を心がけていたため、「学習量の評価」としては適切であると考え。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DPからみての内容的妥当性 本科目は選択科目であり、学生の受講動機をふまえると難しい部分もあるが、学生も一定の成績をあげていることから、内容的には妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」に関しては、すべての項目において平均値が3点以上あり、中には4点を 超える値が示されたものもあった。とくに、「説明の理解のしやすさ」は様々な学部・学 科の学生からの評価として3点後半から平均値が4点超にかけて高い値であることは 評価に値すると思われる。今後もこの水準を落とさないように進めていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義に対する学生の動機付けを維持することは変わらずに課題であると考えられるが、 授業内容を工夫していくことが今後も重要である。授業内容、進め方に関しては 高い評価を得ていたと思われるので、今後もこの水準を維持したい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	八木康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学	1	前期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の内容の把握に重点を置いた。これらの内容は自己を含め人の健康管理をする上で基礎である。しかし、受講の動機は22%の学生が興味のある内容と回答し、88%が単位数の確保と答えていた。 授業計画では小テストを単元毎に設け、予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。小テストは1週間以内に採点結果を各学生に示した。学生は小テストに出る問題を推測しながら予習をして授業に参加するようになり、授業で内容を理解しようという姿勢が見えるようになり、小テストのための復習をすることが当たり前のこととして定着していったように感じられた。1度目の小テストが終了した頃からクラス全体に予習復習が態度として表れたと感じられた。課題以外の学習に取り組んだ学生は19名(19名)で、何らかの形で予習、復習を行っていたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は72(±13)点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達した者は7名と、問題の難易度から言っても予想以上に低かった。目標達成できたと答えた総数は19人(19人中)で100%という高値となったが、平均点はさほど高くなかった。 目標別に見ると、知識理解に関しては19人(100%)、思考判断に関する問題は18(94%)であった。意欲関心も高く19人(100%)と高値を示した。英語学科の学生に取り、新鮮な知識として受け取られているようである。今後、関心と成績のギャップを埋めるよう、授業目標の達成度の程度を高めるような工夫を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活習慣管理においても基本的知識である。また、美容的自己管理においても運動の知識は大きな域を占めておりQOLに重要である。授業準備の欄で指摘したように、学生も一定の成績を収めたことから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が成績の割には低かったが、思考判断として何を問うているか学生には伝わっていると思われ、方法的妥当性はあると考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、予習を全くしなかった者が4名(18名中)、復習をしなかった者が4名と予想より多かった。じっくり考えてもらう時間は十分にとれたと考える。 予習・復習の時間が想定より少なかったことも反省点である。次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。 授業過程を振り返ってみたとき、じっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。 配布物に対する学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	八木康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅰ	全学年	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○		

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実践、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。⑤健康科学実習Ⅰでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。 その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82(±12)点であり、再試対象は1名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達した者は7名(10名)と、欠席する者も少なく全員が積極的に受講していたと考える。 目標別に見ると、知識理解に関しては92%、思考判断に関する問題は100%の者が達成したと自己評価している。意欲関心では100%であった。今後、科目やその歴史なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。 学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、健康管理ための運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によつての言葉かけのタイミングを検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	全学年	前期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目の一般教養科目としてのカリキュラム上の位置づけと講義概要を理解してもらうためパワーポイントを用い講義1回目にシラバスの説明を行なった。 ②本科目は人文学部で開講している理科系科目である。本科目に関心をもってもらうため、とくに女性の体に焦点をあてた体のしくみと疾患について資料を新たに準備した。 ③授業中に講義内容について口頭による質問を実施し学生の理解度を把握した。また、その理解度から適宜理解しやすい講義内容を優先し、講義を実施するようにした。授業計画の進行については、変更があることを学生に事前に説明した。 ④教科書を使わず資料を配布しているため、学生には適宜重要事項を資料に記載するよう指示した。 ③レポート課題には評価項目だけでなく点数配分を示した。提出までには十分な時間をとるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は70点であり、受講者2名は標準レベル(60%以上)に達していた。うち1名が理想的レベル(80%)に達していた。 ②学生の知識理解の達成度は65%、専門分野に活かす姿勢・態度は70%の達成度であった。1名の学生のアンケート結果から、学生は自分なりに目標を達成したと評価しており、知識を確認、新たに得ることがかなりできた、人の事象を理解する視点や考え方をかなり得ることができたと回答している。また、講義の説明についても理解しやすかったと回答している。しかし、上記の授業評価は、理想的レベルに達している学生のものと思われ、目標を達成するためにさらに講義の手法について検討する必要がある。 ③課題レポートの評価基準は、明確に示したため学生の授業の質評価平均値は5.0であった。また、レポート提出前に十分に時間をとったためか図書館を利用し図書、学術データベース、インターネットなども利用していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 この科目は一般教養科目であり選択科目である。一般教養と専門領域の基礎となる知識を培う位置づけの科目で、受講者数は少ないが学生は一定の成績をおさめている。自分なりに目標をかなり達成したと評価している学生もあり、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 人文学部の学生にとりハードルが高い科目ではあるが、成績評価から知識理解、専門分野に活かす姿勢・態度は標準レベル以上の成績をおさめている。講義に関心もつような題材を取り入れたためか昨年度より知識理解についての成績は上昇しており内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	予復習時間に30分以上かけていないことから学習時間の確保は第一と考える。知識・理解の修得度をあげるため講義時間の中で復習の時間を設ける、学生間で意見交換を行ない講義内容の整理を行なうなどの機会をもうけたい。また、レポート課題については、図書館の利用を促すとともに受講生が全学年におよぶことから、とくに低学年にはその利用方法について具体的に提示したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	一般教養科目としての本科目の位置づけから、一般教養と基礎知識を培い、専門に活かす態度を養うという目標は一応達成できた。しかし、受講生が全学年に及ぶことから学習達成度に差がでないよう配慮する必要がある。上記に記載したような取り組みが必要である。次年度は学生の学習時間の確保をはかり、学生の学習量を増やす工夫をしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国の社会と文化	全学年	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生から4年生までの総合人間科学の授業であるので、授業の最初に中国への理解や学習準備状況の確認アンケートを行い、不足の項目に△△を新たに加えた。 ②国際的視野に立って中国のことを幅広く学び、考えながら、異なる社会文化に触れていった。15回授業にそれぞれ異なる内容の勉強により、より深く異文化理解をしてもらった。 ③中国社会文化に関心を向上させるために、10回目にレポートを提出してもらっていた。 ④学習状況を確認するために15回目にテストを行い、学生の意欲を高めるためである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として試験を作成)に達したものは35名となった。 目標別にみると、知識理解に関しては学生による授業評価においては授業の課題以外に具体的に組み込んで学習はPCで調べたり、学生のそれぞれの関心問題ー中国の科学・教育などに関心問題を調べたりしたことが示された。これは学生が思考判断で何が問われているかを提出されたレポートは幅広い領域に亘った豊富な内容であった。但し、授業の課題以外に学習していない理由については「なにをすればいいか分からなかった」、「特にすることがなかった」などの自己評価が示された。これは、勉強に積極的、自覚していなかったことが考えられる。次年度に向けて明確に指示・指導しなければならないと反省点が考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP, CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は総合人間科学の科目であるが、総合的な視点と豊かな人間性を養うための教養教育科目の位置づけ、学習者の国際的社会文化を修得して国際的な視野を広げ、多様化、多様性を複眼的に備える人間の育成の内容的には妥当であると考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量評価において、授業の課題以外に学習していない理由としては、配布された資料がしなかったから、何をすればいいか分からなかった。特にすることがなかった、等が挙げられた。次年度に向けては、まず学習量・範囲をより具体的に示したうえで、学習時間・学習量・方法を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学にあたる本科目の位置づけから教養教育グローバル化社会に臨んでいる大学生としての教養を得ること。中国社会文化を学習すると同時に、関連する日本の社会文化などを理解してもらうこと。 以上から毎回の狙いを具体的に示すこと、可能な限り考える時間を取ること、復習課題を意識的に提出できるように、工夫を凝らしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	後藤宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と経済	全学年	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○		○	

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	経済学は数学を使用するケースが多いが、この講義では、できるだけ、歴史や事例を多くして講義を行った。後半は、2012年度にノーベル経済学賞を受賞したロスとシャープレーの研究、マッチング理論の紹介を行った。より身近な話題と使いやすい道具を提供したいと考えている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	S: 37% A: 29% B: 10% C: 7% D: 15%					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義が中心であるが、できるだけ学生が参加できるように心掛けしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今年度は、マクロ経済学と経済史を中心に講義を行った。後半に、マッチング理論の講義を行った。学生に聞いたところ、マッチング理論を好む学生が多かった。そのことから、次回は、ミクロ経済学の中心的なツールであるゲーム理論・マッチング理論・オークション・社会選択理論の講義を行う予定。それらの道具を使用して、現実的な経済環境や制度を分析したいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	福田達也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
法学概論	1	前期	選択	はい	

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生が板書をノートにきちんと書き留めるように、あえて配布資料・プリント等の厳選した。そのため、毎回の講義に出席し、説明を漏らさずに聞いている学生と、講義中の説明等を聞いていなかったり、欠席が多い学生との間に、講義内容の理解に大きな差が生じたように感じた。以上により、学生の学習準備性については、講義の予習よりも毎回の授業の復習を行うという傾向が強いのではないかと推断する。受講動機については、ほとんどの学生が単位数の確保のためと回答しており、法学等に興味を抱いて履修する学生が少数であるので、今後は履修した上で法学に興味を持ってもらえるよう工夫を施していきたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	ほぼ達成された	ほぼ達成された			ほぼ達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験の成績については、全体として高得点者が多く、上記の目標はほぼ達成できていると思われる。しかし、学生による授業評価によると、到達度自己評価の全ての項目において、多くの学生が③の「まあまあそうだと思う」および④の「わりにそうだと思う」を選択しており、試験の成績とは別に学生の授業内容の理解に努力が必要であると感じた。学習量の評価については、0時間と回答する学生が多いので、今後は授業時間内だけでなく授業時間外学習をしなければならないよう工夫を施していきたい。さらに、授業時間外学習時間が少ないことと併せて、図書館やインターネットの活用についても、利用していないと回答する学生が多かったため、上と同様に今後の課題としたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、ほぼ問題ないと思われる。法学は基本的には、まずは制度の内容や基礎理論の理解が重要であり、知識・理解の面が極めて重要であると考えられるためである。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の進行方法については、現在のところは変更を検討していない。上記3におい ても触れているが、毎回授業の概要を示したプリントの配布をすることの意義につ いては理解しているが、これにより授業の際の説明を不十分に聞いてしまう学生が 発生するのではないかと危惧している。概要プリントがない分、毎回の授業の説 明をきちんと聞いておかなければならないという意識を学生に持ってもらえたらと 考えている。現在のところは、試験の全体的な成績を見てもわかるように、このス タイルである程度は理解が高まっているので、今後、全体的な成績がさがらうであ れば、概要プリントの配布も検討していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	上記4においでも触れているが、学生の授業時間外学習をいかに確保するかが今 後の最重要課題と認識している。適宜、課題を課す等、積極的に取り組んで行き たい。また、就職活動に対する配慮や休講についての連絡等についても検討をして いきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フランス語 I	全学年	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	志望動機によれば最も多かったものが「関心のある内容である」70%であり、初回授業の調査でほぼ全員がフランス語に初めて触れると回答したことから、未知の語学であるフランス語に対する興味・関心・期待の高さが伺えた。その他の志望動機は「資格取得に必要である」30%、「単位数を確保する」20%だった。初回授業のオリエンテーションでは、本年度から変更されたDPによる評価方法を配点も含めて提示し、授業に臨む心構えをするよう促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78点(±32点)であり、再試対象は0名だった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベルの80点以上に達したのは12人中7人(うちS評価2人、A評価5人)であった。 学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「まあ達成できた」～「大いに達成できた」と回答したのは、DP1「知識・理解」に関しては全体の90%、DP3「意欲・関心」90%、DP5「技能・表現」も90%という結果だった。 自己評価が高い一方で、平均値を下回るC評価(60点台)に該当するのは25%だった。満足度は高いのに評価が低い層の「知識・理解」をいかにもっと深めるかを今後の課題としたい。 学習量の面では、1回30分程度以上の予習・復習を週に1回以上行ったのは72%であった。小テストや課題提出などを繰り返したことで、語学は毎日の積み重ねだとある程度自覚していたことが伺えた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目はカリキュラムマップ上の「総合人間科学」の「国際社会と現代」であり、総合人間科学のCP「知識と教養を培い、総合的・分析的視点で問題を捉える能力を伸ばす科目」という観念に相違なく、学生は一定の成績を収めていることから、内容として妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 DPの観点では、全般的評価に当たる「自分なりの目標を達成した」の質問に「まあ達成できた」～「大いに達成できた」と回答したのは81%であることから、内容として妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、おおむねどの項目も評価は高かった(平均値は3.9から4.3)。しかし「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」に11人中1人が「全くそうでないと思う」と回答していた。グループやペアで話し合って答えを導く協同学習を主体としていたので意外な回答だった。語学の授業は文法中心にするのか会話中心で行くのかという時間配分の難しさがつきまとうが、この回答はもっと会話練習したかった、コミュニケーションを取りたかったという思いの表れと推測する。 インターネット利用について、教科書の各課の映像がWEBで公開されており、授業後に再視聴して復習するように促したが、実際に利用したのは1割以下だった。また授業の課題以外に学習に取り組んだのは27%であった。次年度に向けて、より効果的な教科書の選定を行い、自習に効果的な参考書やサイト、フランスに関する図書の紹介に努めたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総合人間科学のCPIに合致する協同学習の結果、高い自己評価が得られ、一定の成績を残すことができた。20人前後の少人数授業という特性を活かし、1人ひとりの問題に対応しつつ、今後も先生が一方的に「教える」のではなく、学生同士で「教え合う」授業スタイルを徹底させていくことが望ましい。また志望動機の調査で表れた「関心の高さ」を、半期を通して、その先もいかに持続させていくかにも留意したい。そのために授業外でもっとフランス語に触れられるよう、魅力的なコンテンツを利用させるなど、教科書だけにとどまらない学習方法を提示していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語 I	1	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今まで学習経験のない科目であるので、科目名から学生の履修する意欲をひきつけられるように、初回のガイダンスでは詳しい授業の目標を示した。また、実用性のある実例を提示した。この科目の学習を通して、その将来性を示した。 ②学生の学習状況を把握し、学生が自らの復習を身に付けることができるように、毎回必ず前回学習した内容の確認テストを行った。 ③授業用のテキストの他に、普段の日常生活で実際に使える簡単な会話例文を、毎回の授業で別教材として補足した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績分布は、「100～90点」が4名、「89～80点」が15名、「79～70点」が5名であった。本科目の標準的レベルは75点以上、理想的レベルは80点以上とし、平均値は81.3点であったため、評価できる結果に達している。 ②「到達度自己評価」をみると、「知識を確認修正し、新たに得ることができた」の平均値は4.5点、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は3.9点であった。 ③「学習量の評価」によると、授業前の準備(予習)がかなり不足しており、これは次年度の課題としてもっと工夫すべきである。 ④「情報利用」をみると、「シラバスの記載を参考にした」値が2/3を占めており、シラバスが活用できていることが分った。 ⑤語学学習は単に言葉を習得するだけではなく、それと関連性のある知識や情報を学ぶべきである。この点について、「図書館利用」は10%しかなかったという結果から、図書館の資源の利用、ネット情報の重要性に対する学生の認識はまだ不十分であることが考えられ、次年度に向けてしっかりと指導していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、「選択科目」であり、また「資格取得に必要でない科目」でもある点において、学生の受講動機を高めようとかかなり工夫した。学生は半期の授業を受け、一定の成績評価を得られることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②基礎的知識をしっかりと身に付け、新たな事象を理解できていることから内容的には妥当であったと考える。 ③以上のことから、総合的にみると、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「(3)説明は理解しやすいものであった」の平均は4.0点、「(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話しあう、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均は3.3点であった。しっかりと理解した上で、自ら習得した内容を発表できるようになったことは大変良いことと思われる。学習量の評価について、(1)授業の予習時間は1回30分未満は2/3を占め、(2)授業の復習時間は1回30分以上は2/3を占めた。新しい語学の授業であるので、予習することはかなり難しいということが(1)の結果から反映された。その反面、新しく学習した内容をしっかりと復習できているところは評価すべきである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①殆どの学生にとっては、新しい語学の学習であったが、初級段階における中国語の表現記号(ピンイン)を判断し、発音できるということは概ね全員達成できた。 ②初級的な文法を理解し、簡単な文を表現することもできるようになっていた。 ③授業外の復習やその他の情報・図書館利用の面においては、まだ改善すべき点が多かった。もう少し学習の方法を指導していきたい。 ④以上のように、次年度からは予習課題に関する具体例を示し、学生が積極的にそれを取り入れ、また、習得した内容をもっと表現できるように授業中の発表時間を増やしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	金銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハンゲル I	全学年	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	○第二外国語として初級レベルの韓国語力をつけることを目標としている。開講後に行ったアンケートで(学校で実施する授業評価ではなく、別個に実施)「新しい言語に触れてみたい」や「今後の仕事に生かせそうだから」、「韓国旅行の際便利そう」などの積極性が見られる受講動機がある中「単位が欲しいから」との返答もなるなど、学生間の温度差があることが分かった。 ○受講姿勢に差がある50を超える受講生全員が興味と持つように“楽しい”授業を目指した。学生が興味を持ちそうな韓国事情や毎年好評のK-popなどを授業に取り入れ最後の授業まで韓国語への興味が持続するように勤めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	登録のみで授業に出なかった4名を除いた49名の成績平均は79.285で理想的レベルに近づけることができた。残念ながら再試対象者が6名出たが、再試に応じた学生は全員落第することはなかった。 授業評価における到達度自己評価でも全設問満足度が高いという嬉しい結果となった。中でも「学びを深めたいと意欲を持つことができた」や「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の設問に特に高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足とが一致する結果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見での内容的妥当性 試験の結果で見られるように、第二外国語として目標とていた成果を挙げられたので内容的に妥当性があると考えられる。 DP 授業中学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価では授業で取り上げる機会が少なかった項目以外は高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。 まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	初級という授業の特徴上、学生間のやり取りが難しいが、なんとか授業に取り入れる方法を考えたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。そして語学以外に“韓国”そのものに興味を持つ学生が増えて、狙って以上の成果を挙げられた。来年度も引き続き学生と関連のある韓国の話題を取り入れながらよい成果を挙げたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	横溝紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○		×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今学期は受講生が2名だったため、昨年度までよりも学生と会話する時間 が多めにとれた。来年度以降、受講生が増えた場合でも、できるだけ学生 と会話する時間が取れるように努めていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語の教え方に関する 基礎的な知識を広く網羅した今学期の授業については、高く評価してい いと考えている。今回の授業で実現した、受講生とのやり取りの増加を、 受講生の人数が増えても実現していきたいと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	横溝紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年次に学んだ基礎的な知識を日本語授業に活かす方法を体得する演習授業である。1年次に学んだ知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験するような形で、授業をデザイン・運営した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、学生の達成度・満足度の高い授業であったと判断される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、「1年次に学んだ知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験する」という授業のデザイン・運営は、内容的妥当性が高かったと判断できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本授業のデザイン・運営は高く評価され ると考えられる。学期最後の「教材・教具の作成」に、昨年度までより時間を かけたことは、良い結果につながったようである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本授業のデザイン・運営は高く評価され る。来年度は、受講生の数が本年度よりも少なくなることが予想され る。少なめの受講生で、どのようにして(学生による)模擬授業等を行わせる のか、工夫していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	横溝紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーション	全学年	前期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「異文化間コミュニケーション」という授業は、選択であり、この分野についての専門的な知識を持っている学生はほとんどいないのが現状である。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に明示下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づき、上記のような判断を下すに至った。「意欲関心」「態度」が、「達成された」ではなく「やや達成された」になったのは、予習復習時間・情報利用・図書館／インターネット利用の項目で、高得点でなかったことによる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、基礎的な知識の獲得をめざした本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業の進め方については、 ほぼ問題がないと思われる。「レポートの字数が多い」という学生1名の声につ いてであるが、課題の内容と字数の整合性について考えていきたいと思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本授業を担当することになって3年目であるが、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業自体の質は向上してきていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館／インターネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	村田 希巳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英米文学入門 英語文学入門 I	2～4年	前期	必修	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	これは、2年生、3年生、4年生合同受講者の授業で、「必修科目である」70%、「資格取得に必要である」18.8%、「関心のある内容である」22%、「単位数を確保する」26%であった。『アナ雪』を扱ったので、かなり関心が高かったから受講したと思われる。 学習の準備状況は、毎時間予習を確認して、予習ポイントをあげるようにしたので、多くの学生が予習に取り組んだ。一回30分(3回～11回)以上の予習に取り組んだ学生が33人いたが、一度も予習しなかった学生が4人いた。教材は、教科書のほか、関連資料を多く配り、レポートの書き方、レポートに参照できる項目などを配布して、レポートが書きやすいように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	このクラスの成績は、レポートが2回(30点、20点)、授業の平常点(10点)期末テストが40点で行った。レポートは理解も深く、50点中平均点は41.5点と高得点で、試験の平均点も33.5点と高得点であった。全体の得点の平均が82点と高く、かなり理解度が得られたと思われる。内訳は、S12人、A27人、B10人、C5人、D1人であった。準備は、1回30分以上の予習を11回行った学生が、33%、7～10回行った学生が25%で、かなりの学生が精いっぱい予習をしたことが伺われる。けれども何人かは、「何をしているのか分からなかった」という学生もいた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの自己評価のところで、「自分なりの目標を達成した」は、「まあまあ」、「わりにそう思う」、「かなり」、が90%で、「全くそうでないと思う」「少しそうでない」が10%いたが、おおむね達成できたと思われる。期間中の課題と学習範囲は、はっきり示せたと思われる。理解度は、「かなりそう思う」「わりにそう思う」は50%で、「まあそう思う」66%だったので、おおむね理解は深まったと考えられる。40人の学生の予習を見る時、やや確認が曖昧だったかもしれない。そのあたりが課題である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業中に、自分の意見を話し合う、発表する機会はわりに多く与えたつもりだったので、アンケートで、「まあまあそう思う」「わりにそう思う」「かなりそう思う」が86%だが、「全くそう思わない」「少しそうでないと思う」が14%いたのだから残念だ。もっと多くの学生が取り組めるようにしたい。初めて教えた科目だったので、授業予定計画と学生の理解度があわず、もっと速度を緩めるべきだったと思われる。期間中3本の作品を計画したが、“Frozen”のテキスト1本で十分だった。このテキストが、思ったより、細かく描かれていたので、ゆっくり味わった方が良かったと思われる。けれども、自分で映画を観たより、深く味わえることが出来たという意見を数人からもらったので、文学作品入門の授業としては、それは目的にかなっていると思われる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習量は、課題が多かったので、「予習とたくさんのレポートでいっぱいだったので、この課以外に学習していない」という学生が多かったようだ。レポートを書く時に、インターネットを利用すると、幅広く書けるという事を、言っているが、なかなかその余裕がないようだ。学生のなかには、基本的な読解力がついていない学生が数人いた。全体的に大量の予習をこなして来る学生が半数以上はいたので、ますます伸びていく可能性を大きく感じられた。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語表現法	2	前期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○			×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨今、活字離れの現状を指摘されるが、学生の苦手意識を払拭するために、表現することの意義をわかりやすい事例をもとに説明することに力をいれた。日常の生活意識の中にある表現をモチーフとして、話し方、文章の作り方等、その組み立て方の根本的基礎的奥義を解説した。ただ単に私の講義を聞くだけではなく、その都度、簡単な問題を通して、学生自身の実力を測りながら講義に臨めるように配慮した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この科目について、教員から要求されたこと以外に自分が調べる、或いは学習予習するといった学生は半分以上いないようである。何が重要であるかはよく理解できているが、それを活用する意欲や工夫、関心といったものは浅く、試験に出そうだから頑張るという傾向が強いようであった。したがって、課題を出すより、その講義中、徹底的に集中できるような方法を取るべく講義することに力を注いだ積みである。技能表現に関しては、65%から70%である。もう少し意欲を出せば、おのずと成果も期待できるかと考えるところである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容妥当性 科目は選択科目である。受講動機を見る限りでは、少なくとも関心はあったようであるが、学習方法がわからない学生もいるという事が判明したので、それなりの対応を工夫した。そのために内容を修正しているので、内容的には妥当であったと考える。 DP、行動目標から見ての内容妥当性 継続評価から技能表現に関する達成度がやや低かったが、時間をかけて学ぶ方法の修正をしているので、内容的には妥当であったと考える。	本 ② 成
---	---	-------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今まで通りの方法に加えて、示す事例をさらに増やしながら解説してゆきたい。今以上にマンツーマンの指導も続けてゆきたいと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況からくる総括的評価は70点という所である。受講した学生すべてが満足理解できるよう、質問コーナー通信を徹底させたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	石川朋子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
世界の中の日本語	2	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、日本語教員の資格取得希望者にとっては必修科目である。「世界の中の日本語」という科目名だが、日本語教員に必須の知識である日本語教育文法に関する知識を授けるために設けられた科目である。そのため、授業では日本語教員に最低限必要な日本語教育文法を扱うことにした。 しかし、実際の受講生のうち、本科目が必修の者は1名だけであった。本科目を選択した学生の受講動機で「関心のある内容である」が16.7%、「単位数を確保する」が83.3%であることから明らかなように、本科目の内容そのものに興味や関心のある学生は少なかった。そこで、自らの日本語使用を内省し分析する機会を多く用意することによって、日本語教員資格取得希望者だけでなく、日本語に対する興味・関心の低い者も知的好奇心が持てるように心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験を受験した7名の最終的な成績の平均値は78点であり、再試験対象は0名であった。90点以上が1名、80点～89点度が2名、70点～79点度が3名、60点～69点度が1名であったことから、期末試験受験者全員が標準的レベルに達したと考えられるが、理想的レベルである80点以上の成績を修めた者は7名中3名と、まだまだ限られていた。 学生による授業評価の「到達度自己評価」を見ると、知識理解に関する項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.2、中央値は4.0であった。これにより、DP1知識理解に関する教育目標は「達成された」と言えよう。次に意欲関心に関する項目(3)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」に目を向けると、その平均値は3.3、中央値は3.0であった。これにより、DP3意欲関心に関する教育目標は、「やや達成された」と判断できる。 DP4態度に関しては、学生による授業評価の「学習量の評価」を観察したい。項目(1)「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」では、アンケート回答者6名のうち3名が1回、もう3名が2～3回と回答し、項目(2)「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」では、アンケート回答者6名のうち2名が1回、3名が2～3回、1名が3～4回と回答した。これらの結果から、学生は準備や復習に取り組んではいるものの、その頻度はあまり多くないことが示された。よって、DP4態度に関する教育目標は、「やや達成された」と考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「選択科目」であるが、日本語教員資格取得希望者にとっては必修科目である。しかし、授業準備の欄で指摘したように、実際に本科目が必修であった者は1名だけで、日本語に対する興味・関心というより単位数確保の必要性から本科目を受講した者が多く、動機付けに苦慮する面があった。この課題に応えるように工夫した結果、受講生全員が一定の成績を収めたことから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記「学生の目標達成状況について」において、本科目のDP3意欲関心、及び、DP4態度は「達成された」には及ばなかったが、受講生の期末試験・小テストの結果や授業態度、出席状況等は概ね標準的なレベルに達していたことから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①アウトカム評価 学生による授業評価の「授業の質評価」において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が3.3、中央値が3.5で、他項目より低かった。その要因として、自分の意見をまとめるのに必要な時間は学生によって異なるという考え、及び、授業では授業時間内でしかできないことを扱いたいという考えから、本科目では「自分の意見をまとめる」作業は宿題としたことが挙げられる。自分の意見を発表する機会は設けたが、学生同士で話し合う機会が少なかったことも評価が相対的に低かった要因の一つと考えられ、この点を反省したい。 ②プロセス評価 本科目では、学生に種々の課題を与え、その達成状況を見ながら授業を進めていった。こうすることで、学生一人一人の理解度を把握することができた。このクラスには、授業中に携帯電話を見たり他の作業をしたりする学生が1名いた。その学生を集中的に指したり目の前に立って授業をしたりしたが、改善が見られなかったため、授業後に呼び出し注意を促したところ、その後は受講態度が良くなった。その学生は、最終的には標準的レベル以上に達する成績を修めることができた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の主眼である、日本語教育文法の基礎知識の習得という目標は概ね達成できた。課題としては、学生が準備や復習に取り組む時間を増やす工夫をすること、及び、学生同士で話し合う機会をより多く設けることが挙げられる。 来年度は本科目を担当しないが、今回の反省点を他科目の授業に生かしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	アンデリユー ジッツマン

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced English Discussion I	3	前期	必修	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○		○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course expects students to use the skills they developed in Years 1 and 2 to explore the areas of Active Learning, Student-Centred Learning, and Critical Thinking. The course has 5 parts. The first part introduces the concept of Active Learning. The other 4 parts have the students research topics of interest to them while exploring in more details the 3 areas mentioned earlier. They are expected to work autonomously in groups and to evaluate themselves and their peers in the process.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students were generally well prepared for the class activities, having done significant research for the topics. Although the student-centred activities were expected to offer more of a challenge for the students, most of them stood up to the challenge. Of all the areas this is probably the one that needs the most work on their part.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1: Students were required to use the skills they have learned in Years 1 & 2, plus do adequate research for the various topics. They handled this well. DP2: This area could use some improvement. Some of the students were very passive about organising, planning and preparing for group activities. DP3: Generally, the students worked very well and achieved great results. DP5: The students developed their general English skills well.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Some more preparatory activities need to be included in the initial stages of the course for the students to better understand the benefits of the program.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	This course is primarily based on self- and peer-evaluation. The students, in general, have been quite proficient at this, although some more direction could be provided so as to improve this element further.
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Public Speaking I	3	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Students were able to follow the directions and thing about and write their own speeches and preform them without difficulty for the most part. Students had enough time to prepare their speeches. Some students didn't e-mail their speeches in a timely matter. In the future I want to plan the timing of the class better.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were asked to assess their own speeches as well as those of their classmates. Most of the grade was derived from the actual performance of their speeches. Also they were eevaluated on their research skills as well as constructing the speech.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were able to state their own opinion, brainstorm their ideas,write a speech and deliver their speech in class. About 80% of the class could do the tast but some students didn't complete task or come on time.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	The student comments I received were quite positive. I think next semester I need to be more strict with time deadlines. Students wait till the last minute to send their speeches and that results in no practice time. I have been teaching this class for twenty five years so I now pretty much understand and can handle the class.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Overall I don't envision any major changes in the Public Speaking class. I would like to focus more on fluency as the final goal of this class. If students can speak in good English for three minutes, they can gain the confidence and skill they need to speak fluent English
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
時事英語入門	2	前期	選択	いいえ	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	時事という分野は、その言葉から難解というイメージが伴いがちである。そうした点を払拭するために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた事項やニュースの背後にある背景知識にも言及するようにした。こうした情報を日本語で説明することで、英語だけでなく、内容自体にも学生が興味・関心をもてるように心がけた。そのために、できるだけ新しい内容の時事的ニュースをリーディングとリスニングの両面から導入した。また、授業以外の時間にもニュースや時事的事項にふれる機会を意識的にもたせるため、最新の時事英語を毎日更新しているウェブサイトを活用して、開講期間中に2回時事英単語の小テストを実施した。リーディングに関しては、入門というクラスの性質上、比較的短い分量の記事を1回の授業で2～3本読ませ、授業時間内に単語の反復練習を実施して、内容の理解と記憶の定着を図った。具体的には、ペアもしくはグループになって、英語→日本語、日本語→英語がスムーズに口頭でいえるように練習をさせた。リスニングに関しては、ディクテーションスタイルを採用し、放送される英文の速度を2段階に分けることで、正しい単語の聴き取りを徹底した。受講者数が70名弱で、語学の授業としては人数が多いクラスであったが、無断欠席や遅刻がほとんど散見されなかった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1の知識理解に関しては、2回実施した小テストの平均点が、1回目:15点満点中12.6、2回目:15点満点中11.5と、それぞれ高得点を結果として出している点から、教育目標は達成されたと理解している。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中17.1という平均値が出ている。これはほぼ全員が毎回出席をしたうえで、指示されたタスクに熱心に取り組んだ成果である。そのことが小テストの結果にも有機的に反映されたものと思われる。定期試験については、50点満点で平均が27.8で半分をやや超える程度であったが、平素の高得点が結果的に総合得点の底上げにつながった(総合評価の平均点:73.5)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずはニュースや記事の背景までを含めた知識理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、1名を除いた全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	定期試験の結果が、こちらの予想に反して、正答率が低かった点が懸念材料である。これは短い記事を大量に読んだために、結果的に定期試験の出題分量として多すぎた点は否定できない。定期試験の答案をあらためてチェックしたところ、完璧に解答できている設問と解答が無記入になっている問題という答案パターンが多かった。この点に関しては、試験前に復習などの時間を創出し、あらためて学習した内容の理解・定着強化を図るべきであった。授業の質評価においては、ビジネス英語入門と異なり、発表する機会がかなり制限されたこともあり、(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、という項目に対して、「そうでないと思う」を選択した受講生が10名いた。受講生が多かったために、1回の授業で全員に最低1回は指名発言してもらうことに集中するあまり、学生の主体的かつ自主的な意見表明の機会が喪失される結果になってしまった。指名と発言をいかにバランスよくとっていくかが今後の課題である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、評価を1名を除いた全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語にまずは慣れ親しむという入門レベルの目標は達成できたと思われる。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、毎時間復習する時間を設けるようにしたい。特に、最終授業日は復習の時間に割り当てるなど、学生のニーズに合った柔軟な授業計画を立案することも検討したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ビジネス英語入門	3	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	極めて実務的な側面の強い学習領域であるのと、学生が卒業後に実際にふれる機会が想定されることを考慮して、ビジネスの現場を反映した英語を提供することに重点をおいた。また、教科書に沿って網羅的に授業を進めるのではなく、自己のビジネス経験や最新のビジネストレンドなども織り交ぜながら、単に英語のみならず、ビジネスという分野を多角的にとられられるように授業の展開に工夫をこらした。具体的には、ビジネス英語を学習するだけでなく、それが実務ではどのように活用されているのか、またその単語に関連した派生語なども一緒に紹介することで、学生が効率良く学習できるようにこまめな板書を実践した。さらに学習した成果が確実に受講生に定着しているかを数値的に確認するために、開講期間中2回小テストを実施した。出欠に関しては、ルールを初回の授業で説明したうえで、無断欠席や遅刻をくり返すと、学習に著しく支障をきたすだけでなく、他の受講生との学習「格差」が広がるおそれがあるとして、15回すべて出席することを求めた。くわえて、無断欠席や遅刻によって、前の週で獲得した貢献度のポイントが消えるおそれがあるなど、平素の学習意欲や態度が結果に直結する点も周知徹底した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	まず、出席したうえでの授業貢献度(配点:20点)という項目を設定した。これは出席が大前提の評価項目だが、この点に関しては、大半の学生が積極的に発言を行い、クラス全体が活気あふれる授業となり、非常に有効だった。発言の順番などの指名に関しては、特定の学生に偏向しないように注意をしたが、結果的にほぼ全員が何らかの形で発言をしたため、この項目の平均値は14.7だった。これは欠席をする学生がほとんどおらず、欠席回数も1～2回程度であったことも関係している。小テスト(配点:15+15=30点)に関しては、授業貢献度と若干異なる結果が出た。具体的には、良好な結果を得た学生とそうでない学生との差が大きかった。この点に関しては、テストの前の週などに復習などの時間を導入するべきであったと考える。2回目に行った小テストが平均値では上昇しているものの、予想していた結果を下回った(第1回平均値:7.0、第2回平均値:9.1)。定期試験(配点:50点)に関しては、こちらから形式などを事前に説明していたことが奏功し、小テストに比べて結果がやや改善した(平均値は67.3点)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ビジネス英語においては、業種・業態に関係なく共通して必要な単語などが数多く存在する。そうした単語が実務の現場でどのように使われるのか、ということを知識として理解することが最も重要である。到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という項目に全員が「そうだと思う」の項目を選択していることや、数値的にも小テストに比して定期試験の平均点が向上した点からも、内容的に妥当であると考ええる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの自由記述で、「3年よりも4年の方に指名が多かった」という指摘があった。授業の質評価の項目においても、(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、という項目に対して「全くそうでないと思う」を選択した学生が2名いた。この点は真摯に受け止めたい。授業中の発表は、学生の学習意欲に直結する部分である。したがって今後は、受講生のモチベーションを低下させることなく、継続・維持できるよう、開講期間中適宜、指名についてのルール説明を徹底することで、クラス全体における英語力のボトムアップを図っていききたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	DP1知識理解に対する評価を全員がその成果があったと判断した点から、最も重要な目標であるビジネス頻出の単語の習得に関しては、その目標は達成できたと考えている。ただし、開講期間中での知識理解の定着強化を図るという点が徹底されていなかった。この点に関しては、学習したものの中から、より優先度の高いものを選択して、集中的に再度説明を行い学習定着を図る、などより柔軟に対応していききたい。指名スタイルについては、おおむね評価が良好なので、指名の方法やルールづくりを明文化するなどして、学生のニーズやモチベーションキープに結びつくような授業準備および授業展開を今後図っていききたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	村田 希巳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英米文学作品研究(小説・随筆)	3～4年	前期	必修	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	これは、3年生、4年生合同受講者の授業で、「必修科目である」22.9%、「資格取得に必要である」20.0%、「関心のある内容である」34.3%、「単位数を確保する」65.7%であった。短編を4編扱ったので、かなり関心が高かったと思われる。 学習の準備状況は、毎時間予習を確認して、予習ポイントをあげるようにしたので、多くの学生がとて熱心に予習に取り組んだ。一回30分以上の予習に取り組んだ学生が多数いたが、一度も予習しなかった学生が1人いた。教材は、毎回プリントを配った。レポートの書き方、レポートに参照できる項目なども配布して、レポートが書きやすいように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	このクラスは、レポートが4回(15×4)と40点満点の期末試験で成績をつけた。レポートは、短編を一度読み終わるたびに、ディスカッションをし、その後にレポートを課した。それで、短編の理解は深まったと思われる。レポートは、15点満点で、平均点が11.6点だった。テストは、40点満点だったが、内容に深く踏み込んだ質問だったので、平均は26.1点とあまり取れなかったのが残念だった。 合計の平均点が81.5点となり、理解度はまあまあであったと思われる。成績の内訳は、S14人、A13人、B2人、C6人、D2人となり、SとAが27人を占めていたの、一定の理解度はあったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの自己評価のところで、「自分なりの目標を達成した」は、③④⑤を合わせると87%で、全くそうでないと思うが13%いたが、おおむね達成できたと思われる。期間中の課題と学習範囲、提出物などの評価基準は、③④⑤を合わせると、89%で、特に、「わりにそうだ」が40%、「かなりそうだ」という学生が32%いたが、自由意見に、「評価基準が明らかではなかった」と書いた学生もいた。理解度は、「まあそう思う」は40%で、「かなりそう思う」が48%だったので、一定の理解は得られたと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業中に、自分の意見を話し合う、発表する機会はわりに多く与えたつもりだったが、アンケートで、「まあまあそう思う」「わりにそう思う」「かなりそう思う」が89%だったのでまず上手くいったと思われる。インターネットを利用した学生が半数いたので、文学を研究しようという態度が感じられた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	このクラスは、学生がかなり真剣に取り組んでくれた。レポートや課題が多すぎたかもしれないが、それでもついてきてくれた。「小説を読み解く面白さ」や、「文学の楽しみ方が分かってきた」、という意見がもらえて、目的の達成がかなり出来たと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	大塚 由美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語レトリック入門	3	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○			

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門科目であるにもかかわらず、受講生の能力に、かなりバラつきがあることが気になった。授業目標は、オーセンティックな英文に触れてもらい、作品における時制の変化、人称の変化、タイトルのメタファー、作品構造に注目しながら、作品分析を行い、意見を述べ合うことを目標とした。作品の主要登場人物も受講生とほぼ同年代の女性で、テーマも社会問題、地球環境問題等の重要な問題を含むものであることから、受講生が内容について深く考えて話し合いをするのに適した内容だと思っ て選んだ。 真面目に取り組む学生は大変真面目に予習をし、意見も述べるよう必死で努力していて、大変励まされた。その一方で、一部とはいえ、予習などの努力もせず、意見も発表せず、クラスメートの意見にも関心を示さない学生もいたことが残念だ。翻訳は手に入りにくい点はあるが、クラスの中で複数の受講生が所有しており、借りることが可能である。英文がわかりにくい時などに上手に翻訳を利用するようにと授業でも伝えたので、英語が難しくまったく読めないということは考えにくい。翻訳の助けを借りながら、優れた英文を読むだけでも、確実に力がつく勉強法だ。また、クラスメートの意見を聞くことで、自分の考えも広がり、刺激を受ける。 昨年度の受講生の中には、部活動や就職活動をしながら、必死でテキストを読んでいた学生たちがいた。後期も「理論」を受講している学生は、そのような先輩たちに続いてくれると思っている。英語を専攻しているという自覚を持ち、努力を続けてくれることを期待している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期の出席数と、試験の成績がほぼ完全にリンクしている。欠席もほとんどなく、きちんと授業の予習をして意見を発表した学生もいる中で、残念なことに出席しているが予習もしていないくて、従って意見発表もなく、他の学生の意見にも耳を傾けない学生が一部いたことは残念だ。 試験問題は、出席した学生を前提として授業で説明したり話し合ったりした箇所から出題した。したがって、自由記述で「試験問題と授業での内容が一致していないように感じた」という意見にはびっくりした。授業に欠席して、それを補っていなかったと考えられる。試験結果は、80点以上は26%、60点以上だと、67%、33%が60点以下という結果となった。専門科目であって教養科目ではないのでこの結果は妥当だと理解している。また33%の60点以下の学生は、一人を除いて、就職活動その他の理由で欠席日数が一番少なくて3日で、4日の場合が非常に多かった。 ただし、就職関係で欠席しても、その部分を補って授業の準備を行い、高得点を獲得した学生もいた。その頑張りを評価したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	一流作家の作品を取り上げ、そのオーセンティックな英文を読み、作品における時制の変化、人称の変化、メタファー、そして作品構造に注目しながら、作品分析を行い、意見を述べ合うことを目標としたと説明したが、そのためには授業の予習を前提としている。その準備をしていない受講生にとっては、内容も理解できず、意見発表もできなかったと思う。英語専攻の学生で、そのようなことを想定していなくて、その意味では学生を過大評価しすぎていたのかもしれないと反省している。また、後期の「理論」の授業で作品後半を扱うため、後期も引き続き受講している学生は、真面目に取り組めば、理解力、思考力をつけてくれると思うし、そのように指導を心がける積りだ。 英文であることに加えて、作品の主要登場人物が受講生とほぼ同年代の女性で、作品テーマも弱者への偏見、地球環境、資本主義経済等、現代社会においても重要な問題を扱っていることから、受講生が英文を読み、その内容について深く考えて話し合いをするのに適した内容だと思って選んだ。卒業後直面する社会状況に対する理解等が深まってくることが期待できる。したがって科目の内容的妥当性には肯定的な判断を示したい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	英語専攻のクラスということで、英語力、毎回の授業の準備等について、過大評価していたと反省している。欠席が多く、出席しても授業準備をしていない学生がいる一方で、真面目に取り組んだ学生もかなりいた。欠席が多い学生と60点以下の33%の学生がほぼ完全に重なり、27%が80点以上、60点以上だと67%という数値は、専門科目としては、まずまずの結果であると理解している。後期の「理論」も引き続き受講している学生もあり、その指導に努力したいと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業内容の理解度は、受講生が、どれだけ授業の準備をしているかにかかっている。準備ができていないと、クラスメートの発表や教師の説明が理解できないかもしれない。「思考判断」については、提出が、かなり遅れた一名を含め、全員がレポートを提出して、レベルの差はあるが、自分の考えをまとめて、頑張りを見せたことを評価したい。「知識」に関しては、成績が60点以上の67%の学生に関しては評価できるが、60点以下の33%は残念ながら授業目標を達成しているとはいえない。ただ、上記したように専門科目だと考えると甘い評価はあり得ないので、67%が授業目標達成というのは、まずまずと理解している。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	笹山郁生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
統計学入門(データ分析)	3	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、英語学科の選択授業であるが、受講生にはなじみの薄い内容であると考えられる。このことについては、受講生の受講動機で「単位数を確保する」ために受講したと回答した受講生が61.9%を占めていることにも示されている。このように、受講生にとってなじみの薄い内容であるため、授業実施にあたっては、毎回、グループワークを取り入れ、受講生同士が話し合うことによって、授業に対する興味・関心を高めることができるよう心がけるとともに、授業内容を着実に修得することができるように、毎回、課題を課すことにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎週の課題の平均得点率は79%、最終試験の平均得点率は71%であった。また、到達度に対する受講生の自己評価では、中央値はすべての設問に対して3.0、平均値については2.6～3.3の範囲に分布していた。これらの結果から、多くの学生がある程度のレベルまでは統計学について理解できるようになったものと考えられる。しかしながら、受講生の到達度自己評価を見ると、「かなりそうだと思う」と回答していた受講生は、すべての項目において最大2名(27名中)であったことから、ほとんどの受講生にとっては、統計学の知識を理解し、十分に活用することができる状態には至らないまま、受講を終えてしまったものと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は、英語学科の授業ではあるものの、その内容は「統計学」であり、受講生にとっては、本授業を受講する意義が明白ではなかった可能性が考えられる。このことは、「単位数を確保する」(62%)という受講動機が最も多かったことにもあらわれている。しかしながら、統計学についての基礎知識は、英語学や英語教育学で卒業論文を執筆する際には必要となる知識・技能であるとともに、教職に就く場合にも身につけておいた方がいい知識・技能である。今後、本授業を受講する意義について、受講生により的確に伝えることができるよう、授業内容等を工夫していく必要がある。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本授業の内容は、受講生にとってなじみが薄いため、授業実施にあたっては、 毎回、グループワークを取り入れ、受講生同士が話し合うことによって、 授業に対する興味・関心を高めることができるよう心がけた。授業の質評価の中 の「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参 加する機会が与えられていた」という設問に対する平均値が3.7と比較的高いこ とから、このような試みについては、少なくとも形式的には受講生に理解さ れていたものと考えられる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	毎回グループワークを取り入れたことにより、受講生は、ある程度楽しみながら、 統計学の基礎的知識と技術を身につけることができたと考えている。しかしながら、 本年度は、グループワークの時間を多く取り入れた結果、授業の進度が若干遅く なってしまったところがある。また、着実に力をつけるためには、グループワ ークだけでなく、受講生ひとりひとりが主体的に学習に取り組む必要があると 考えている。毎回、課題を課すことにより、受講生ひとりひとりが主体的に 学習に取り組むよう試みているが、個人学習によってより大きな効果が得ら れるようにするために、課題の内容を多少見なおしたいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	村橋素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	3	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機の「単位数を確保する」92.6%はほぼ授業の感触通りである。各回の授業では、同様の認識で、テーマ項目を基礎情報の提供から実際の状況における能力・知識・技法の基本的な活用ができる段階までの学修項目にまとめて提示した。 学修準備性に関しては、就業意識をこれから向上させる段階の履修者が多いため、特に予習を課さず、自発的に次回テーマの関連項目に目を通す程度の提案にとどめた。復習については、社会人基礎力の継続的な向上努力以外に授業で取りあげた各種技法・知識については、実人生で必要になるまで保管しておくだけでもいいという判断が、学生にあったのではないかと考えられる。 3年となり、既に英語を就業の条件から外している学生が少なくなく、英語に関する業務知識・技法の複数の授業回については補助資料の提供で難易度を下げるなどの工夫を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業で取りあげるテーマと学生がこれまで学修してきた内容との親和性が薄いと思われるため、期末試験の評価を50%とし、授業と並行するその他の課題等への取り組みを相対的に重視した。当初履修登録者の内1/4強が不合格・不適格であったのは、主に授業期間中の課題に対応できなかったことが主因と見られる。 成績評価においては、遅刻・欠席については減点ルールに基づき、レポート等各課題毎の評価はルーブリックを基本としつつ、アナログの評価が必要と思われる観点については講評を添付して評価を行った。レポートの評価におけるルーブリック利用は今回初めての実施であったため、評価表自体は公表せず口頭での評価視点伝達のみとした。 DP1、2、4については授業のタイムマネジメント、方法などで反省点が残る、また新カリキュラムでは2年生への配置となるため、一層の検討を加えたい。但し、単位数確保を主な受講理由とする層が大半という状況はそれとして、科目への関心を受講動機とする層を主な対象と想定して、授業で取り扱うテーマの質については、現状を維持したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	該当するとされたDPIは DP1-1、DP2-1、DP4-1、DP4-3、DP5-1、DP5-2であったが、以下の理由で DP3-1、DP4-2は当科目では妥当性を欠くと思われる。 DP3【関心・意欲】-1: 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。 DP4【態度】-2: 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。 理由: 受講生が必ずしも海外と関わる就業を希望していない現状から、DP-3-1、DP4-2で求められるような壮大な意欲・態度は獲得目標として不要であり、現実的な一般実務基礎知識とビジネス英語文書の基本、社会人に必要とされる基礎的能力を伸ばす態度育成に傾注すべきだと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	一部の授業項目でタイムマネジメントが不十分であった。説明理解のしやすさの項目の評価平均値が2.6であったことから、授業項目の提示や説明の方法について改善が必要であると捉えている。 「答などを明確に」説明してほしいという意見については改善を図りたい。ただ、労使問題、男女格差などを始め、多くの問題には明快な「正解」がなく、むしろ明快な「正解」に見える議論にこそ検証の必要があるという視点を提示することが主眼であったため、この狙いを伝えきれなかったという反省点と併せて改善を図りたい。 学生によって対応が異なるとの指摘については、各受講生が描く学修の視点(合格すればいいvsしっかり学修したい)と職種イメージ(英語が使える仕事vs仕事は英語にこだわらない～むしろ避けたい)が異なるため、学修上のアドバイスや到達目標は可能な限り個別に対応したことのマイナス面と考える。 情報利用については、主にインターネットの適正な利用についてパソコン教室において授業でも複数回取りあげた。ネットを利用しなかったと回答した者があるということは、授業中ネット検索の振りをしていたという事なのか、理解に苦しむ。図書館については、学生が一度に特定の問題で利用するには、量的また最新書籍の収蔵状況から特に勤めなかった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業中の論点・問題点についてのなげかけやレポート課題において、考察力の向上が充分見られなかった。日常的に複数の新聞の論調を比較するなどの指導を検討したい。 技能面については、特徴的な手法についての基本は実際に演習し、特化した資料も提供しているため、今後は必要に応じて活用してもらえるものと思われる。「慣れる」部分が多い分野であり、基礎的事項は概ね理解してもらえたものと思われる。 意欲、関心については、DPで指定されている「英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深め」たり、「国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たし」たりという点については、本科目では二義的な観点とし主に「産業社会への関心や意欲」と読み替えて取り組んだため、本来のDPIにおける達成度は低かった。DP配当の見直しも課題のひとつと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	八尋春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
航空ビジネス研究	3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	極めて特殊な事情で途中で交代をして担当した科目であり、十分な準備ができていなかったが、なるべく受講生がとまどわないように、まず授業についての希望を聞いてそれになるべく沿うようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の結果を見ると、航空業界についての基礎知識や業界用語についてはほぼ完璧にできていた。しかしながら、航空業界を取り巻く周辺の事情については、正答率が低かった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	航空業界については、知識としての学習が重要であるが、そこに就職を希望する学生にとっては、知識のみでは不十分である。そういう観点から見ると、DPの全ての項目を網羅している現状は妥当だと言える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今回は、いわばピンチヒッターであり、十分な準備ができなかったことが残念である。今後はこの科目を担当することもないが、別の科目で学生と触れ合うことがあるため、授業の進め方について、学生の理解度を意識して行いたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	八尋9回、須藤1回、木沢1回というように分担して授業を行ったが、うまく連携ができていた。それぞれの得意分野を活かした授業となっていた。この科目の担当は今回だけであり、この経験を別の授業で生かしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	塚本美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小学校英語入門	3	前期	必修	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 教職過程を履修している学生にとっては必修の科目であるが、そうでない学生にとっては選択科目であることと、教職過程を履修している学生とそうでない学生とでは、学校教育やそれに関わる法律、あるいは心理学などの知識に大きな差があるため、教職過程を履修している学生にとっては重複する部分があっても、そのことをことわって、説明しせざるを得ない場面が多くあった。 ② ほぼ毎回、授業に関するテーマについてのレポートを課題として与え、それらを通して、学生の理解度を測り、問題がある場合は、授業の中で適宜復習した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.4点で、再試対象は2名であり、全員が標準的レベルに達したとはいえなかった。一方で90点以上のものも11名いるので、評価の基準が厳しかったとは言えず、高い目標を達成したものが多くいる一方で、そうでないものも一定数いるという結果である。到達度自己評価については、どの項目も中央値が3.0であるが、平均値で見た時、知識理解については、3.6と比較的高い値である一方、コミュニケーション力や表現力については、2.9と低い値であった。授業の内容については、取り扱う知識量が多く、それを伝授する場面が多かった反面、学生の発表や討論の場はあったものの、十分とはいえない。知識の伝達とコミュニケーション力や表現力の向上については、授業で取り扱うバランスに苦慮しているが、後者について取り組む時間を増やせるよう検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容と妥当性 本科目は「専門展開科目」であり、選択科目であるが、教職課程の学生にとっては必修科目である。よって、単位数の確保のためだけに受講している学生も多く、動機付けに苦慮しているが、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるといえるだろう。 ② DP、行動目標からみての内容の妥当性 学習到達度の自己評価について、「まったくそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と答えた学生がどの項目についても若干いるが、一方「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えた学生も一定数いる。また、このことは、成績にも反映されている。よって、内容は妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	評価基準や課題などは具体的に書面または口頭で繰り返し説明したので、授業の質評価でも中央値が4.0、平均値が3.6と3.8であった。また、具体例をあげながら わかりやすく説明することに心がけたので、この点についても中央値が4.0、平均値が3.6であった。よって、これらの点については、一定の成果をあげたといえる。し かしながら、学生が参加する機会や質問を受け付け答える機会は授業中に設けたものの、毎時間ではなく、限られた時間であったため、不十分であった。この点に ついては、授業の形式を見直して、改善していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	61.5%の学生が単位数の確保のために履修している一方、将来の職業選択のための必要性から受講している学生もいるため、学生のレディネスや動機付けに大き な開きがあり、授業運営が難しい面があるが、ほとんどの学生は一定の成績を収めていることから、目標は概ね達成できた。しかしながら、学生の参加する機会や 質問に対して答える機会などは十分ではなかったため、この点については、来年度に向けて授業の在り方を工夫していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅴ	4	前期	必修	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○			○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 教職課程履修者の必修科目であるため、「受講動機」は100%である。 ② 「英語教科教育法Ⅰ～Ⅴ」の中で、当科目は教育実習に行く前の総仕上げとなる科目である。このため、春期休暇中の課題として、次の2点を課した。 (1)「新編 教育実習の常識」(蒼丘書林)を読んで、その感想をA-4用紙に、1,000字以内にまとめなさい。 (2)平成24年度「New Horizon English Course」の3年生用の教科書pp.92～111までの単語、発音記号、品詞をすべて書き写しなさい。(B-5サイズの大学ノートが望ましい) ③ 4名中3名は、それぞれ5月11日、25日、6月1日から教育実習が予定されていたため、模擬授業を前倒して実施する計画を立てた。その結果、4月20日、27日と5月11日、18日、25日に模擬授業を実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	① 学期末の達成度評価において、担当者が掲げた目標を4名全員クリアできた。 ② 知識・理解に関しては、4年間の積み上げ作業となっているので、かなり達成されているであろう。 ③ 模擬授業に合わせた事前教材研究は、指導教案チェックと提出から、全員できていたことが確認できた。 ④ 模擬授業における的確な音読に関しては、まだ完成途上にあると認識した。 ⑤ 教育実習時に英語による授業が展開できるか否かは、現場との兼ね合いもあるため短絡的な結論は出せないが、まだまだ実力を伸ばせる部分であろう。 ⑥ 教育実習が終わっても、市内の中学校・高等学校において教育支援を継続しており、教育に対する態度は十分に身につけている。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本教科は、教職に関する科目の一つであり、4年次教職課程履修者必修の2単位科目である。教科指導法における各種理論や模擬授業を通しての指導技術などは「英語教科教育法Ⅰ～Ⅳ」において積み上げられてきているので、それらの理論・指導技術などをいかにして現場で活かせるかは重要である。その中でも特に現場で困らないための発音指導を意識させながら模擬授業を重ねた。このことにより「英語教科教育法Ⅰ～Ⅴ」の連携が保たれ、内容的には妥当であると考えられる。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 知識・理解に関しては、上記した春期休暇中の課題本を通じて、教育実習のノーハウは修得されているはずである。また、技能表現に関しては、実習現場で使用可能な教材の作成などに関しては、模擬授業の中で活かされていた。さらに、態度に関しては、自分のもつ能力や知識を教育実習という形で、地域社会の発展に寄与していた。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 5月に迫り来る一番早い教育実習生に向けた模擬授業を集中的に実施したため、その間、他の指導を差し込むことはほぼできなかったのが心残りである。しかしながら、実習期間の確定通知(特に北九州市)が5月になることもあるため、授業の予定がシラバス通りに進められないことも生じ得ることを念頭に入れた計画立案ができないか検討する余地は残っている。同時に、今回は4名の受講者であったが、次年度は2倍以上になるため、さらなる苦悩は続くことになろう。 ② 授業の質評価に関して、期間内に行う学習の範囲や課題、説明の理解しやすさにおいて4名中1名が、「少しそうでないと思う」と回答しており、次年度の改善につなげたい。 ③ 情報利用に関してシラバスを参考にした者とそうでない者との比率は、半々である。 ④ 図書館利用に関しては、図書・雑誌の利用及びインターネットのホームページの利用(4名中3名)はできていたが、データベース検索は逆の数値となっている。 ⑤ 担当教員への意見として2点挙がっているため、(1)に関しては次年度の課題にしておきたい。 (1) 模擬授業などの機会が多くあり良かったのですが、さすがに教員採用試験前は、試験に関する授業をしてほしかったです。(勉強・面接練習含め) (2) 主に新聞を読んで、知識を増やすことができた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 「英語教科教育法Ⅰ～Ⅴ」の最後の位置付けとなっており、4名の受講者は各自のペースで努力をした結果、1名が北九州市の教員採用試験に合格した。 ② 4名中1名は教育実習が後期の10月1日～22日となってしまったが、授業の流れからすると、前期の授業期間中が望ましいと考えている。 ③ 本科目登録の4名のみならず、3年生・2年生の教職課程履修者が、市内の2つの公立中学校(板櫃中、思永中)と県立高等学校1校に週1回の学習支援に出かけていることは、実習時に必ず身を結ぶはずである。 ④ 改善できそうな課題に関しては、次年度その改善に取り組みたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	中島俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○			○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	より良い社会の建設は教育の成否にかかっています。良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むことを学生に強調しています。教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出るだけ厳選して授業に臨みました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の内容を見ると、良く書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	言葉による講義だけでは学生の集中力が続かないことは経験上理解している ので毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。これは概ね好評 である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいとい う要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと思 っている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性を 体現している現代の学生のニーズに対応して討議方法の工夫などさら なる工夫をしていく必要性を痛感している。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	横溝紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法 II	3	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年生後期の「英語教科教育法 I」の担当教員に授業の内容をあらかじめ確認し、2015年前期の授業内容を決定した。「英語の教え方」そのものについての知識はほとんどない状態だったので、そこに特化した授業をデザイン・運営した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの「知識理解」に関する部分は高い評価を得ており、そのことは自由記述でも裏付けられている。「態度」の部分では、「学習量」が特に「予習」で多いという結果が出ているが、自由記述で「プリントの量が膨大」「量が多すぎる」というコメントもあり、「やや達成された」という判断に至った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート、そして自由記述の内容からも、学生の満足度が高い授業であると判断されるので、内容的妥当性は高いと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については特に問題ないと思われるが、「宿題・課題の量」について改善できればと思う。教員志望の学生なので、この時点で獲得しておいてほしい知識がたくさんあるため、どうしても宿題・課題の量は多くなってしまうのは、ある程度仕方のないことだと考える。宿題・課題の量をできるだけ減らさずに、宿題・課題をやることへの達成感・充実感・満足感を増すことに努めたいと思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今回初めて担当した授業であったが、授業のデザイン・運営はおおむねうまくいったと考えている。「宿題・課題の量」に関する工夫を行っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Oral English I	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	In this Oral English course,used the textbook "Four Corners: Book 1", and the focus was on buildin g students skills in English. Each unit of the textbook covered a different topic, and it took 2-3 weeks to complete the units. We worked on vocabulary building, and how to use that vocabulary effectively. We also worked on the four skills of reading, listening, writing, and speaking
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-Learning 10%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades ranged from 87% to 95% with an average of 91.06%. In CH1eru e-Learning, all students except 3 reached their monthly targets of 300 miles, and in Word Engine 200 correct responses each week. The 3 students who didn't reach the goals still achieved over 80% of the goals. In Word Engine, analysis of the data shows that students learned an average of 285.68 new words (range 95 – 619)					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Oral English showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, although we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students did not make significant gains. The main reason for this was probably that they started with extremely weak skills in all areas, so have many hurdles to cross. This will be our focus in the coming years.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Some new goals are: 1. A stronger focus on vocabulary building, with students being given a word list to master at the beginning of the semester using the online programme "Quizlet" 2. Creation of more supplementary material for all teachers to use in their classes. These would be available in our Moodle CMS. 3. More performance-style activities and assessment tools so students have greater opportunities to communicate in English. 4. A more robust assessment system that evaluates their skills and knowledge, as opposed to the current system which focuses too much on attitude and class performance. 5. Extension sessions after school or during summer vacation to help students who are falling behind other students.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	As stated in #6 above, we need a better system of assessment which better reflects their true ability and progress. Students need to be given a clear set of goals we wish them to achieve, and these would include 1. A set of "I can..." targets for each unit of work, 2. A definitive set of vocabulary items to master, and 3. Performance tasks with clearly defined assessment criteria. Although we don't wish to get into a similar system of assessment driven instruction as can be found in high schools, we do need our assessment tools to more accurately reflect the progress of each student.
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	Kenneth Gibson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Oral English 1	1		選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	My preparation or the students? I don't understand... The students' preparation was OK for most, but a few did very little. Some just copied the answers out of the textbook of their friend just before class. I don't know how they did on their e-learning and in the skills classes, but I would have liked them to prepare better.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Most of the students did well and did make good progress. Only one or two performed unsatisfactorily. On the above evaluations I would say that DP3 and 4 were quite good for the class as a whole, but DP1 and 5 were not as good.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The students worked very hard in class for the most part. I had only one student that I felt was not even trying to do her best, but instead was just struggling to stay awake most of the time. In the class the students were very active and completed all the activities robustly! DP3 and 4 were pretty good, DP1 and 5 were partially achieved, but not really to a high level.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	As a part time teacher the goals of the classes are set by the school's full time staff. They do meet with us and discuss these, but we don't really set the goals. In general, I have found the goal to be very ambitious... That's better than being too easy, but there is so much to cover in the textbook that it's difficult to really spend time on a lesson point and master it. The students also have e-learning and presentations and summer assignments, etc. The full time teachers take care of most of this, but still it's a very ambitious program.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Again, what do you mean? The evaluation of the students is set by the department. Attendance, test scores, in class participation and so on. A score is given in each area and the final evaluation comes out...
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	アンデリユー ジッツマン

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Oral English I	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Communication". We used the textbook "iTalk" (MacMillan Language House) which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in two e-learning programmes: CHleru, for developing general skills, and Word Engine, for building vocabulary.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students did well in all assessment areas (attendance, classwork, presentations, final test, and e-Learning).					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	In this class, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, although we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students did not make significant gains. The main reason for this was probably that they started with extremely weak skills in all areas, so have many hurdles to cross. This will be our focus in the coming years.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	Our goals for the next academic year include: 1. A stronger focus on vocabulary building, with students being given a word list to master at the beginning of the semester using the online programme "Quizlet" 2. Creation of more supplementary material for all teachers to use in their classes. These would be available in our Moodle CMS. 3. More performance-style activities and assessment tools so students have greater opportunities to communicate in English. 4. A more robust assessment system that evaluates their skills and knowledge, as opposed to the current system which focuses too much on attitude and class performance. 5. Extension sessions after school or during summer vacation to help students who are falling behind other students.
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	As stated in #6 above, we need a better system of assessment which better reflects their true ability and progress. Students need to be given a clear set of goals we wish them to achieve, and these would include 1. A set of "I can..." targets for each unit of work, 2. A definitive set of vocabulary items to master, and 3. Performance tasks with clearly defined assessment criteria. Although we don't wish to get into a similar system of assessment driven instruction as can be found in high schools, we do need our assessment tools to more accurately reflect the progress of each student.
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	村橋素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Intensive Reading I	1	前期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本学への入学生の特徴として、英文解釈においては英語を意味の羅列で捉え、その総和から訳を推理するという方略に依存する傾向がある。本授業では、英文は文法・語法・構文への理解を基礎として解釈するもの、との方法論を提起し、今期は前年度よりも主要4品詞、品詞の働き、5文型に前置詞句の働きを重視して取り上げた。 学修に当たっては、長文読解に加え、英文Eメールによる予習の質疑応答、音読、英作文、プレゼンテーション、ネット検索などを加味し、読解のみに留まらず、4技能の向上に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	中学・高校で英語をコミュニケーション手段として捉えてきた学生の中には文法アレルギーの強い者が少なからず存在している。積極的に理解しようと努力した学生が多かったと見ているが、一方で、最後まで文法苦手意識を解消できなかった層があった。 当科目はDP2に該当しない位置づけではあるが、大学生の英文読解・情報処理の課題として、テキストに提示された見解について批判的に検討することを促した。しかし、主体的なクリティカルシンキングには充分繋がったとは言いがたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	コミュニケーション能力については、当科目としてリーディング技能が該当し、異文化の思考方法や価値観への理解を通じて協働へと繋げる学修として、現在の位置づけは妥当と考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業内容の理解を促進し、学修の先に展望できる将来イメージを視覚的に訴求することに努めた。しかし、授業の質評価で、説明が理解しやすかったかという質問項目で他より5.4の評価が少なく、平均値3.7であり、到達度自己評価に寄与できなかった要因となっていると思われる。基礎項目確認の一層の徹底と説明・提示方法の改善が課題と考える。 インターネット利用については、宿題の課題としてインターネット情報検索を課した上で提出を受けており、授業評価の回答で「利用しなかった」が大半であったことは不可解である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	当期に取り扱った教材はTOEIC換算でスコア500レベルの言語材料と文法事項であったが、英検準二級取得者（TOEICスコア400程度とされる）を中核とする新入生にとっては、相当量の学修が必要となる科目である。成績平均がcaろうじて良に到達したことは、「やや達成された」レベルと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	ポール・コレット

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Extensive Reading I	1	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this course was to help students increase their ability to read in English. This involved having students do regular timed reading practice in the classroom to build reading speed and confidence in reading. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read at least 15 books or around 25,000 words at minimum over 15 weeks. Reading process was tracked by recording word per minute rates for in-class reading, and by using the Moodle Reader system to record and track out-of-class progress.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						
Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (40%) with the final test contributing 30%, and a couple of small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. Final results were variable, with 4 students failing the course due mainly to not having completed the required reading component, along with demonstrating a lack of the overall reading skills required to successfully complete the course.						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The course is quite demanding for the students, but overall the level of participation and commitment is high, with few to no absences and a clear understanding and commitment towards doing the required out-of-class reading necessary to successfully complete the course. As with previous years, students tended to initially approach the course goals with quite low expectations, demonstrating quite negative opinions about their ability to engage in sustained reading of material of substantial length. However, as they worked through the course and were, for the most part, able to see positive changes in their reading skills, this tended to lead to increased perceptions of reading efficacy and increased confidence regarding ability to meet or exceed the required course outcomes. The reality is, however, that the students are entering the course with very low levels of reading ability, and seem to have had little experience in reading long texts in either English or Japanese. They do seem aware of this weakness, and are willing to try and improve this aspect of their English. There are also some issues related to the online system used for tracking reading progress, as some of the books available for the students in the library are not yet entered into the online database, making it difficult to track progress in reading these particular books.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	The overall goal for future courses is to continue to work on increasing reading fluency, and self-efficacy for reading. A large part of this involves making things easier for students to access and read books at a suitable level, and for both the instructor and student to easily track students' progress. We are currently trailing a new online-based reading system that offers some significant benefits in this area, and have seen quite positive levels of acceptance of this system by the students. While quite a lot of time in class has been spent on building up reading speed, there are still issues with limited comprehension of texts, so more focus on such areas as vocabulary building are necessary and will be introduced in future classes.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	The course is very much focused on attaining certain goals – reading X number of words, or X number of books, but at the same time demonstrating comprehension of the material being read. For some students, the latter part of the goal is overlooked, and they focus on only attaining the numerical outcomes. Overcoming this kind of attitude is a challenge for the future. Secondly, finding a way to help students who are unwilling to engage in the out-of-class reading component of the course is important, as these students invariably are unable to successfully complete the required outcomes.
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	塚本美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Grammar & Composition I	1	前期	必修	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 高等学校から大学への学びが円滑に進むように、高等学校での既習事項もわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。 ② 新しく学んだことの定着を図るため、その表現を使って自分のことを英語で表現する機会を設けた。 ③ 予習の習慣がつくように、すべての学生が予習してきたことについて発表する機会を設けた。 ④ いろいろな場面を利用して復習できるように、スマートフォンのアプリを使って毎回復習できるようにした。 ⑤ 毎時間復習テストを行い、学生への復習への意識を高めるとともに、学生の理解度を把握することに努めた。 ⑥ 復習テストで明らかになった多くの学生がつまづいている点については、毎回復習するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.5点であり、再試対象者は3名であった。概ね標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生も多くいたが、一方で再試対象とならざるを得ない学生もいた。基本的な項目でつまづいている学生が若干いるので、これらの学生に対応できるようなワークシートなどを作成し、理解の促進を図りたい。 学生による授業評価においては、知識理解については全員が「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値は4.2、中央値は4.0であったので、概ね達成されているといえる。また、「自分なりの目標を達成した」という問いについても、全員が「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値は4.1、中央値は4.0であったので、授業全体的に見ても、学生は目標を達成できたと考えているといえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPカリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、どの項目も平均値4.3以上であり、「まったくそうでない と思う」、「少しそうでないと思う」の回答者は見られなかったため、概ね 目標は達成できたのではないかと考える。しかしながら、毎回予習や復習が 必要な授業の形態をとり、毎回具体的な指示を出していたにもかかわらず、 30分以上の予習や復習の時間をとらなかったものがのべ3名おり、全員に 学修時間の確保を徹底させることができなかった。今後は予習や復習の結 果を提出させるなどして、学修時間の確保の徹底を目指す。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成 できたが、30分以上の予習や復習の時間をとらなかった学生が若干名いた ことから、全員に学修の習慣ができたとはいえない。予習や復習について は、毎回具体的に指示したり、復習にはスマートフォンのアプリケーション を利用したりするなど、学生が学修しやすいように工夫しているが、全 員に徹底できていないことから、予習や復習の状況の確認をより徹底す るなどして、来年度は改善していきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Practical Eng. Phonetics I	1	前期	必修	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 必修科目であるため、「受講動機」は100%である。 ② 受講生にとって、これまでの英語の授業で、ほとんど体験したことがない領域を取り扱うため、15回の授業進行に対する詳細なシラバスを作成した。 ③ 使用テキスト2冊に加えて、これまで継続使用してきたハンドアウト(21ページで1年分)を配布し、毎回の授業と関連付けた説明用として使用した。 ④ 授業時間帯は火曜日のⅠ・Ⅱ時限目であったが、これまでと同様、毎回8時45分までには教室に出向き、授業の準備をし、定刻に授業を開始した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 学期末の達成度評価において、担当者が掲げた目標を、再履修者1名を含め全員クリアできた。 ② 15週の出席率は、1時限目のAクラスが98.8%、2時限目のBクラスが95.3%であり、A・B両クラスを通しての出席率の平均値は97%(480/495)であった。ただし、再履修者1名が4回欠席したため、Bクラスの数値がやや下がったのが残念である。他の欠席者は、いずれも1～2回のみである。なお、無欠席者は33名中 23名で、全体の69.7%に相当する。 ③ 学期末に独自に実施している評価(匿名で授業の感想を書かせ、10点評価で提出させる用紙)によると、Aクラスの平均値が8.81、Bクラスの平均値は8.89と、ほぼ拮抗していたので、指導の方法としては、学生の期待に応えていると自負している。 ④ 学生によるDP(1)の「授業評価アンケート」の目標達成感、「まあまあそうだと思う12名」、「わりにそうだと思う16名」、「かなりそうだと思う5名」となっており、全体の比率はそれぞれ、36.4%、48.5%、15.1%となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本教科は「専門基礎科目」の一つで、1年次必修の2単位科目である。また、本科目はその性質上、すべての英語学習者に、言語音としての英語発音のメカニズムを正確な形で修得させる学問であると位置付けている。さらに、本科目は他の英語関連科目の礎をなすものである。また、教職課程履修者などには、非常に重要な科目として位置付けることができるため、内容的には妥当であると考え。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 知識・理解の領域において、DP1-2の「英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている」ということに関しては、本科目が高校終了時まで、その詳細をほとんど教えていない点を考慮して、十分な時間をかけながら次の内容に重きを置いた。すなわち、調音音声学的にみた英語母音と日本語母音の音構造の基本的な違い、英語の強形・弱形の関係、リズムとイントネーションの関係などを詳細に取り扱った。結果的に、学期末試験、発音テストなどを通じての不合格者は出なかった。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 授業の質評価において、(1)～(5)の各項目において、それらの中央値4.0と比較した場合、いずれも4.1～4.3の範囲内に位置しており、受講者側からの特別な改善課題は見いだせない。担当教員への意見、「後期もよろしくお願いします」という1点であった。 ② 英語発音に関する受講者の基礎知識には大幅な格差があるが、これまで基礎知識の指導をほとんど受けてきていないので、基礎の基礎となる底辺をいかに揃えるかが常時間われている。そういう意味で、いかに効果的な音声指導法を構築するかということが、継続的な課題となっている。 ③ 学習量に関しては、1回30分程度以上の準備をした受講者が75.6%、0回がその残りである。 ④ 情報利用におけるシラバスの活用は、参考にした者48%、しなかった者52%で、ほぼ拮抗していた。 ⑤ 図書館等の利用に関しては、科目の性質上やむを得ないが、90%以上の者が利用していないという結果になっている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 専門基礎科目で、1年生必修であるという位置付けから、英語音声に関する基礎知識の形成、及び実践的能力の修得においては、おおむね達成できた。 ② このことにより、当科目は、他の英語専門科目の中で、音声を通して学習効果を試すことが可能になる。 ③ シラバスの入念な説明は、第1回目の授業時に説明はしているが、上記に示したように、活用していない受講生が5割を超えているのは心配である。また、当科目の学習量も少ないと感じている。 ④ 図書館等の利用率が少ないのは、科目の性質上やむを得ない部分である。 以上から、上記①・②はさほど問題にはならないが、③に対する継続指導は必要であると受け止めている。また、④に関しては、次年度から、これまでの使用教室であった331番教室が生まれ変わる予定なので、その新施設に合わせた利用のさせ方を検討してみたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	ポール・コレット

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Discussion I	2	前期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Through this class, it was hoped the students would be able to achieve the following: - Improve general communication skills - State opinions about the topics under discussion - Show if they agree or disagree with other's opinions - Clearly express their points of view and explain why they hold those views - Prepare and make short presentations about various topics
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment for the course was predominately based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. Overall, student performance in the class was at a high level. 42% of the class received a final grade of between 70 – 80% while 38% achieved a grade over 80%. Of the remaining students, their lower grades were due to problems with attendance or not completing the required work.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were focussed on the course content and generally tried to contribute to the class discussions. They tended to need more preparation time than I would have preferred which slowed down the class progress somewhat, but generally came up with good results. Class attendance was a bit of a problem early in the course, as was completion of homework, but once students realised the need to participate and do the required out-of-class work for the class, these problems lessened. There were some issues with class dynamics related to problems with relationships between students. This was not apparent to me at first, but as the class was focussed on pair and group work activities, it did lead to some problems and complaints from class members. Overall however, it seems students were satisfied with both the class content, and their performance in the class, something I also felt was at a satisfactory level.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next academic year include: A more robust assessment system that evaluates better evaluates individual contributions to discussion activities, rather than focussing more on group dynamics and outcomes. Providing students with an outline of the work expected of them and how this will be assessed, & making deadlines known, well in advance of due dates. Giving students more opportunities to redo work if is at a low standard along with guidance on how they can raise the quality of their work.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	As stated in #6 above, we need a better system of assessment which better reflects their true ability and progress. Students need to be given a clear set of goals we wish them to achieve, and these would include 1. A set of "I can..." targets for each unit of work, 2. A definitive set of vocabulary items to master, and 3. Performance tasks with clearly defined assessment criteria. It is also important for students to realise that the class, as a discussion class, requires collaboration and cooperation, and that they need to understand that failure to cooperate will influence not just their outcomes, but general class outcomes, too.
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Extensive Reading III	2	前期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○		○		○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	当初は、受講学生の英語力レベルがわからなかったため、途中からはレベルはわかっても、それを満たす教材をすぐに見つけることが難しかったため、毎回の授業にかなりの時間をかけて準備を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目では、毎時間授業中に一定量の英文を読ませ、また授業外時間には、最低10万語の英文読書をオンラインプログラムで済ませることを課した。精読の授業と異なり、学生達がどの程度英文内容を理解しているかを把握することが、やや難しかった。オンラインプログラムは大変すぐれた自習教材であるが、理想的には学生が読んだ本の内容について、クラス内で議論や意見交換をする時間が持てたら、更に良かったかもしれない。ただ現実にはかなり困難だと予想される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	読書は、英語力向上のための根本的活動であるので、DP1の中でも中核的位置を占める。学生達の取り組みも真剣である。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	どのように多読の授業を進めるかは、自分としてはかなりの課題である。読ませるスピードを測定するのは、今後の取り組みに取り入れてみたい。学生個人の語彙 力にも大きな差があるため、統一的な教材で、全体的進歩を促し把握するのが難しい。オンラインプログラムの活用方法も更に研究したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生が概ね素直に取り組んでくれたので、助けられた感じを持っている。上記6に書いたような部分で改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	アンデリュー ジッツマン

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Paragraph Writing	2	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course focuses on two main points: basic grammar review and writing construction. The first part of the course reviews basic grammar while getting students to write correct sentences using the unit's grammar point and topic. The second part of the course continues reviewing grammar, but with more importance being put on proper paragraph and essay construction.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students were generally able to complete the activities. Occasionally the homework wasn't completed in a timely manner and this led to delays in progress. The first part of the course was better understood than the second part. They struggled to clearly understand the paragraph and essay construction elements.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The first part of the course requires them to revisit their understanding of grammar. Although the students for the most part tried hard to understand the material, they struggled with the second part of the course. Achieving a solid understanding of paragraph and essay construction remained elusive to most of the students although they did try hard to understand the concepts presented. This may require some tweaks to the course so that they can get a stronger base before moving on to the next stage.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	As stated in the previous section, some changes to the course where they can get more practice in understanding the paragraph constructs before moving on would make progress more successful.
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	The assessment of the course seems to be sufficient at this point. The problem lies more in the students' understanding of the material as pointed out above.
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Paragraph Writing A クラス	2	前期	必修	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○			○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校レベルの英文法・英作文授業に終始しないように、工夫を施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	ライティングは、英語力が高くない学生を指導するにあたっては、全体的な講義をしても成果を上げることは難しく、基本的には個人指導が必要である。そういう状況のなか、半分を全体への説明、半分を個人のライティング活動、及び添削指導という形で進めた。とりあえず、パラグラフ構成について理解をさせ、それに基づいて一応のライティングができるようにはなった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ライティングは、英語力向上のための根本的活動であるので、DP1の中でも中核的位置を占める。学生達の取り組みも真剣である。しかし、学生本人はすぐにはその上達を実感しにくい部分が大きい。位置づけとしては問題ない。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	英語力が弱い学生に、一律的な授業を行うことで、ライティングを指導し、その技量を向上させることは大変な作業である。基本的には、基本的な文法ルールや、基本単語の習得とその適切な使用法の説明が、どうしても中心を占めることになる。大量の単文を書かせるドリルを積み上げることを躊躇せずに行わせ、その積み重ねの上に、段落構成を習得する改善策を試みたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生が概ね素直に取り組んでくれ、一定の満足感も感じたと思っている。上記6に書いたような部分で改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	村田 希巳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英検演習A	1	前期	選択	いいえ	7名

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英検準2級に合格するように、本試験に合わせて学習準備をたてた。毎回単語のテストを行い、準2級の問題集を進めていった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験に合格できた学生は、自分の目標を「わりに達成できた」と5名が答え、不合格だった学生は、「全くそうでない」と1名が答えた。あと1名は、英検申し込みを忘れたので、同時に授業単位も落とした。学習量は、3回以上30分以上準備した学生が6名いた。その学生たちは、ほぼ合格している。英検1次に合格した学生は5人中4人がSで、あと一人はAであった。問題集と同じ問題を出したので、平均点は、96.8点だった。全員暗記するくらいに問題集をマスターしたようだ。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機はもちろん資格取得のため。学習到達度は、「わりにそう思う」が5名だった。2次テストの面接対策をしっかりと行ったので、「コミュニケーション表現力が高められた」は、「まあそう思う」が6名、「わりにそう思う」が1名だった。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	英検準備に徹底した授業だった。けれども英検の申し込みを忘れた学生2名が失格になったのが残念である。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	7名中、5名合格、1名未受験、1名不合格だったので、まずまずだった。英検の申し込みを忘れずに行うように徹底させてほしい。英検を中心に置くと、授業が英検に左右され、安定した実力をつける授業が行いにくいと思われる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英検演習C	全学年	前期	選択	いいえ	

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	当科目は英検2級合格者のみを成績判定の対象とするという厳しい基準が設けられていた。受講動機を見ても「資格取得」を意識した学生が7割いた。 ただ当の英検の試験日が授業開始後すぐに設定されていたこともあって、授業では、英語そのものよりも各パートごとの解答方法と対策に焦点を当てたものとなった。したがってやや「テクニック」重視のものとなったことは否めない。 特に本授業で重視したのはボキャブラリー強化であった。毎回100個程度の単語テストを行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績は英検2級合格者のみが判定の対象となったが、対象者の得点は80%を超え理想的なレベルに到達したと考えられる。しかしながら英検2級不合格者が7名ほど出てしまったことから学生の到達度の自己評価が伸び悩んだものと考えられる。 思考・判断、関心・意欲、技能・表現の各項目とも「まあまあそうだと思う」と「わりにそう思う」の二つに半数ずつの学生が回答していることからおおむね達成されたと判断するものである。また英検不合格者の中にも「成績はつかなくても今後のために」と受講を続けた学生もいたことから、こうした評価を下したものである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① 当科目は選択科目であり、英検2級合格者を成績判定の対象とするという厳しいものであった。登録上は20名程度いたが、実際には10名ほどの出席で授業は進行了。そのうち半数が合格という結果であった。当科目がもともと厳しい合格基準が設定されていたことを考慮すれば妥当であったと判断できる。 ② DP上の到達度評価を見てもおおむねよい評価であったことから妥当性があったと思われる。ただ職業倫理や行動規範についてはやや数値が低かった点は今後の課題として認識しておかねばならない。 ③ 以上より、妥当性には問題がないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	英検の試験日が授業開始後1か月程度後に設定されていることが最大のネックであるように思われる。英検の日程は変更できないので、今後「英検2級合格者を成績判定の対象とする」という条件は検討すべきである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	全体的にはおおむね達成できたのではないだろうか。英検不合格者が引き続き受講を続けたことから、学生の意欲を引き出すことは一定の成功を見たと思われる。ただし英検合格を最終成績の判定の条件とすることは見直す余地があることは強調しておかねばならない。そうでなければ、「テクニック」に偏った授業になってしまう危険性を伴うし、英検不合格者に対する動機づけが難しくなる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	村橋素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習A	1	前期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校で専ら英検受験の指導のみを受けてきた新入生が主な対象になるため、TOEIC TESTの特性に応じた学修への基礎的な方向付けと指導に努めた。 TOEIC TESTにおけるスコア400の達成が目標となるため、主に中学校学習指導要領の範囲の文構造、言語材料の応用力と、同テストがグローバル社会におけるビジネス・社会で必要とされる英語情報処理能力を問うものであるため、ビジネスや社会の仕組み・慣行などへの理解と語彙力強化に努めた。 昨年度は独自の教材を使用したのが、今年度からテキストを採用し、系統性を高めることを目指した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	TOEIC IPテストのスコア400以上が合格という科目であるが、今期は合格率が50%と、前年度比で5ポイント程度低下した。今年度のIPテスト実施の際、試験中に居眠りをする学生が複数名いたことが、合格率、平均点(410.0→394.0)共に前年度を下回った主因となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	TOEIC TESTは実践的英語情報の処理能力としての速度と正確さを測るテストであり、DP1-2、DP5-2への現在の位置づけは妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	40名を超えるクラス規模で学生の習熟度に幅があったため、基礎学力に劣る層への指導が行き届かなかった。 TOIEC TESTの目標スコアレベル400に対応するテキストを採用したが、より早期に英語のみのディレクションと課題構成に移行できる内容が望ましかったと思われる。このため、2016年度は使用テキストの再検討を予定している。 授業の質の評価における(4)意見まとめや話し合い、学生参加については当科目の性質から該当しないものとする。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	単独の科目として、不合格率50%は突出した数値だが、これはTOEICスコア400を達成できた学生割合が50%であったということで、TOEIC TESTへ向けた学修の第一歩としては、全体として教育目的は「やや達成された」レベルであるとする。 基礎学力に問題のある学生が存在しており、次年度には再度使用テキストについて検討し、明示的な基礎的文法復習と並行した学修としていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語学概論I	2	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学で初めての講義科目であり、毎回の授業にかなりの時間をかけて準備を行った。自らの学生時代に学習した内容をそのまま伝えるのでは、本学の学生には消化不良となるため、かみ砕いた説明を試みた。学生達は「英語学」や「言語学」という学問を全く知らない状態で受講しており、「英語学を学ぶことで英語運用能力が向上する」と考えている者がほとんどであった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本講座では、毎時間授業の最後にリアクションペーパーを書かせて提出させ、次回の授業で(必要に応じてコメントを添えて)返却した。全てPDFファイルとして読み取り保存している。これまで考えたことのない分野(音声学と音韻論の違い、形態論、統語論他)の講義が続いたにもかかわらず、学生達は必死で理解に努め、彼女らなりに理解に努め、興味を持とうとした様子が如実に記されている。※必要であればPDFファイルの提出は可能) 単位を取得できなかったのは1名のみであった。(小テストを受験しなかったため60点に到達しなかった)					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「英語学科」という名称の学科である以上、「英語学」や「言語学」は開講されているべきなので、英語学概論の授業を開講する妥当性には議論の余地がない。但し、概論と言えども一定の英語力を身につけていなければ、各学問領域の意味や面白さを味わうことができない。本学で本科目の妥当性を上げるためには、各学問領域の紹介の深さをある程度省いても、身近な例をふんだんに取り込み、練習問題をたくさん組み込み込みながら授業を進める必要がある。そうすることで、DP1や3に結びつけることが可能になると思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	上記5と重なるが、英語学・言語学の代表的分野に絞り込んで授業を行い、しかもあまり深入りすることなく、入り口付近の知識や考察を、具体的な例や数多くの練習問題を準備して進めていくことが必要だと思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	全般的に学生達には抽象度の高い話題がほとんどで、英語文を研究対象とした考察では、その英語文の意味を理解する段階から始めなくてはならず、その文がもつ言語学的意味にまで発想を巡らすことが難しいことも多々あった。その一方で、学生達は彼女らなりに懸命に理解しようとする姿勢を示してくれたことは大きな励みになった。上記6に記載したことを来年度の課題としたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	横溝紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーション I	全学年	前期	選択	はい	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「異文化間コミュニケーション」という授業は、選択であるものの、多数の履修生を毎年有する科目である。その一方で、この分野についての専門的な知識を持っている学生はほとんどいないのが現状である。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づき、上記のような判断を下すに至った。「意欲関心」「態度」が、「達成された」ではなく「やや達成された」になったのは、予習復習時間・情報利用・図書館／インターネット利用の項目で、高得点でなかったことによる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、基礎的な知識の獲得をめざした本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業の進め方については、ほぼ問題がないと思われる。「教科書を読む時間が足りないことがあった」という学生の声については、昨年度より読む時間を多めに与えることで対応したのだが、完全には対応できていなかったことが分かった。教科書を読む時間の速さには大きな個人差があるため、この点の改善について考えていきたいと思う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本授業を担当することになって3年目であるが、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業自体の質は向上してきていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館／インターネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	林裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
欧米文化交流研修B	全学年	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業は、人文学部の全学年両学科が対象。但し科目名は学科、学年で異なる場合がある。選択科目であり、前年度の後期の途中から目的地、予算、日程の大きな枠組みは掲示で示していた。オリエンテーションでは、40名近くが来たが、お遊びではなく、研修が目的である、参加すれば自動的に単位となるものではないことを説明すると、およそ三分の一が辞退した。また、非常に残念ではあるが、授業開始後、途中で辞退する学生も出てきて、最終的に授業を受ける者は、16名となった。開講時の授業準備性としては、中学の英語レベルは身につけておいて欲しいこと、基礎的なことは繰り返し行うことを説明した。授業を受ける学力的な条件は示さなかったため、意欲と家族の支援が得られることが、事実上の履修をする条件となった。以前に目的地(カナダ バンクーバーのLangara College)で研修を行った飯田教授のテキストを引き継ぎ、二冊を使った。reading, listening を主に強化するテキストであった。学生の実態に即して、全部を無理やり行うのではなく、学生の理解にあわせて、DVDの映像を活用して、誰もが参加できる部分を増やした。国内での授業回数は、12回。カナダでの授業を国内3回分と換算した。②動機づけは、受講動機で③関心のある内容であるが、100%であり、きちんと担保されていた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的には全員が単位を得た。単位認定がLangara College側からの成績、出席状況報告を得てからの評価となり、国内での評価の部分とカナダでの評価の基準が若干異なっていたことがわかった。Langara側の評価は、知識・理解と技能・表現に焦点が置かれていたことを途中で把握した。これに対して、三週間のLangaraの研修中に途中二週間目で、レポートを課して欲しいことを依頼した。通常のカナダの大学でのレポートは現実的ではないので、60語程度の「レポート」を最終的に出してもらい、評価対象とした。 目標別にみると、知識理解(DP1-1)が30%、知識理解(DP1-2)が30%、関心・意欲が10%、態度(4-1)が10%、技能・表現(DP5-1)が20%となっている。 どの学力層からも受講可能なので、非常に学力の幅は広がった。学力の低い層は、発言する際にも声が小さく、積極的な発言は少ないので、カナダでの研修を想定して、最初は小声でもいいからとにかく話す機会をもたせて、話させるようにした。ただ、これは語学に関してというよりは、性格的なものであった。カナダに行って、刺激を受けて、学生が自らの生き方を修正して、自己主張をすることが必要な社会に暮らしていることで学生は変容していった。大学、ホームステイ先で鍛えられて、話す能力が瞬間的にはあるが、驚異的に伸びたことは観察できた。これは、ほぼ毎日学生を観察していて、最も学びの早いグループは二週間目の最初に昼食時に英語で話をしていたこと、最も遅いグループでも、二週間経過後に英語を昼食時に話していたことからの判断である。学生アンケートでは、 4. 学習量の評価を見てみる。自発的学習について、「(4)授業の課題以外の学習に取組みましたか」は、回答者の85.7%が、「取組んだ」としている。絶対的評価では反映しにくい、関心・意欲(DP3-1)、態度(DP4-1)は十分に満たすものとして、理解できる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、専門科目で選択である。繰り返しになるが、経済的な要素が、履修するには決定的に作用する。それをクリアして参加してきた学生であるので、動機づけは十分にできている。アンケートでは、動機として、「必修科目だから」が、1名いるが、誤解である。このアンケートは、国内での授業の最終回時点での結果であり、本来は、Langara Collegeの過程が終わった時点であれば、また別の結果が出たであろう。Langara Collegeの基準では、その部分についての成績評価は、75～95%の範囲内であった。内容としては、非常に基本的な内容に見えるが、それは、言語能力をspeakingのレベルにまで持ってくる場合には、日本の中学校レベルの語彙、表現、文法事項までカバーすることは、極めて自然であった。西南での授業とLangaraでの授業の継続性を考えると、今後は、事前の両校の打ち合わせで、もっと改善点が見られるだろう。Langaraでは、当然ながら西南からの参加者同士で過ごす時間(除く授業時間)を除いては、all Englishであるので、それに対しての心構えを説いておく必要があり、国内でもその擬似空間を設けることには、次年度担当者と検討したい。 置づけでは意味を持つ配置であり、妥当であると言える。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から、知識理解(DP1-1)が30%、知識理解(DP1-2)が30%、関心・意欲が10%、態度(4-1)が10%、技能・表現(DP5-1)が20%の割合である。では、授業ではそれらを「学生が達成すべき行動目標」では、どう示したいのかを見る。1. カナダの歴史、文化、社会及び観光事情を理解する。2. 異文化理解に役立つ知識を習得する。3. 実践的英語力を養う。4. 外国文化と日本文化を相対的に観察できる。以上を示していた。本来は、カナダでの研修部分についての評価アンケートも実施して、学生自身の到達度の自己評価を
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、④口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていたが、平均値3.1で、同じ授業を受けた観光文化学科の平均値3.4②と比較すると若干低い。これは、英語学科の場合には、他の授業で、そのような機会が多く恵まれているので、逆にこの授業では少ないと判断したのであろう。提出物の提出率も高く、求めているレベルを提出していた。もう少し、元気に発言する機会を設けてもいいのであろう。しかしながら、カナダに行ってわかったのだが、非常におとなしい人の割合が高い編成であり、授業内で発言することが、難しい様子は、どちらの国でも観察された。 学生の意見としては、4. 学習量の評価について、「授業の課題以外に学習していない理由」で、「時間がなかったから」とある。これに対しては、オリエンテーションで、全体の構成を示して、具体的な学習時間がどれくらい必要かを理解させることが必要である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Langara College の学びも含めて、学生の評価を確認して、次年度につなぎたい。瞬間的ではあるが、カナダでは全員が授業以外でも英語を話していた。英語を話せるようになることだけが、この授業の究極的な目標ではないが、そこまで持っていた学生の頑張りや、高い評価に値するものと理解できる。カナダでのホームステイのトラブルが二件あったが、学生は自分でLangara College の担当事務部門(Home Stay Office)に交渉して、解決策を見出した。このように外国でその国の言葉で、不利益をこうむらないように、自己主張ができる体験を持ったことは、今後の学生のキャリアには大きな経験となったであろう。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	英語
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎演習Ⅱ Bクラス	2	前期	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○			○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	自らの学生時代に受講経験のない科目でもあり、毎回の授業にかなりの時間をかけて準備を行った。実際の準備にあたっては、使い勝手の良い教科書を選定して頂いたこともあり、常識的な範囲での批判的思考を学生に伝授することを念頭に置けば、大きく困ることはなかった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された			やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本講座では、毎時間授業の最後にリアクションペーパーを書かせて提出させ、次回の授業で(必要に応じてコメントを添えて)返却した。全てPDFファイルとして読み取り保存している。学生達が必死で理解に努め、彼女らなりに理解に努め、興味を持とうとした様子が如実に記されている。※必要であればPDFファイルの提出は可能。これまで疑問に思ったことのない、日常的な情報伝達や意見交換の中に、鵜呑みにしてはならない要素が含まれている場合があることに気づいていった。全員単位認定された。クリティカルシンキング及びロジカルライティングの基礎的考え方は到達できたと判断している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、英語学科のみならず全学的に提供すべき科目であると考え。シラバスにはその位置づけとして示されていないが、「思考・判断」というDP2に直接関わる、学士力養成という点において、重要な位置づけをされるべき科目であると考え。授業は一切英語力とは関わりのない内容で進むので、英語学科内科目と言うよりも、全学的な科目位置づけが望ましいかもしれない。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	クリティカルシンキングの部分は、情報を受け容れてそれを分析する性質があるので、授業内容の統一がしやすく、授業が進めやすい。しかし、ロジカルライティングは、各自の異なる発想を論理的にまとめる作業を伴うので、非常に手間がかかる。クリティカルシンキングとロジカルライティングは、それぞれ独立した科目として開講した方がよいかもしれない。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	身近な出来事を例に取りながら、知らないうちに前提にしていることに気づいたり、ステレオタイプに染まっていたりしていることに気づく良い機会となった。研究論文などを今後書く上でも、必要な科目だと思われる。
------------------------------	--